

幸福感・環境・価値観の関連分析

坂 部 創 一

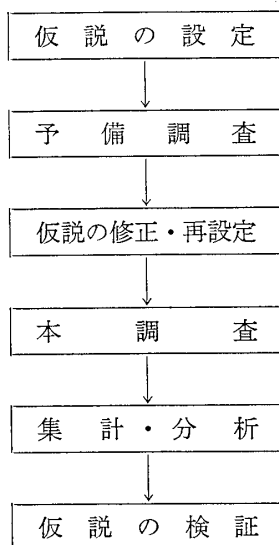
はじめに

本研究の目的は、幸福感・環境・価値観の関連を分析することであるが、このテーマを選択する動機となったのは、次のような視点である。

- (1) 同一の環境に対する各人の満足度の違いは、何によってもたらされるか。
- (2) 自分の生き方や性格等に対する満足度が高い人々には、共通の価値観の傾向性がみられるか。
- (3) 幸福感を左右するのは、環境的要因と主体的特性（生き方・価値観・性格等）が考えられるが、どちらの影響力が強いのか。

1. 分析の方法

図 1-1 分析のフロー



本研究における分析の方法は、図 1-1 のフローのとおりである。仮説を設定し、それを検証するという手順になるが、本調査を実施する前に予備調査を行なって仮説の修正と再設定を行なっている。その仮説の説明が 2 章でなされており、3 章は、調査の方法と単純集計結果について述べている。本研究では、理論仮説を三つ設定しており、その分析・検証が 4 章の環境満足度と価値観の関連、5 章の主体的満足度と価値観の関連、6 章の幸福感・満足度・価値観の関連となっている。

2. 仮説の設定

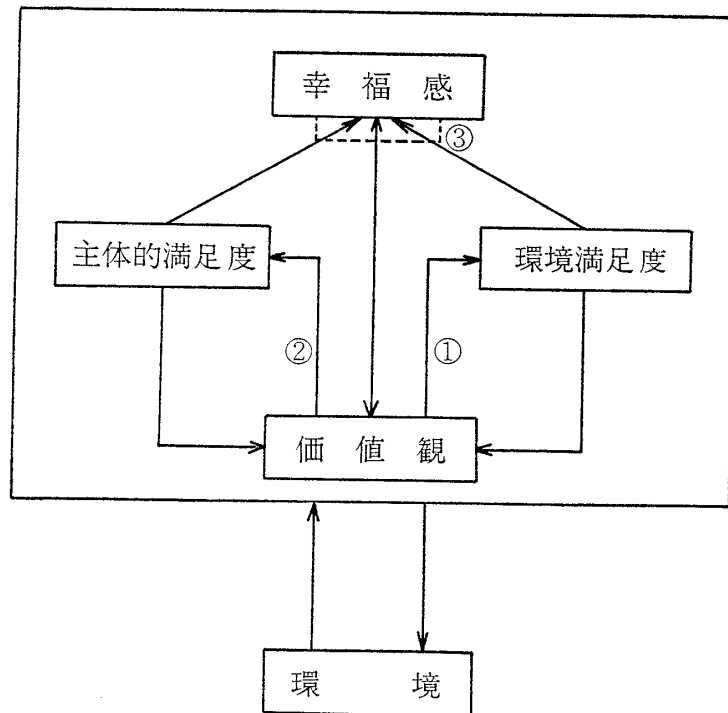
(1) 理論仮説

本研究における理論仮説は、次の三つである。(図 2-(1)-1 を参照)

- ① 同一の環境に対する満足度は、主体の価値観と関連がある。
- ② 主体的特性（生き方や性格等）に対する満足度は、価値観と関連がある。
- ③ 幸福感は、主体（自己）や環境に対する種々の欲求の充足感（満足度）や価値観等と関連がある。

なお、理論仮説については、それぞれ、分析の章において詳しく述べることにする。

図 2-(1)-1 理論仮説の関連図



注) 幸福感は、個人最終的な感情であるので種々の要因が考えられるが、ここでは範囲を限定して価値観・満足度・環境との関連を分析する。

(2) 作業仮説

理論仮説を検証するために必要な作業仮説は、次の二つである。

- ① 個人の価値観を12の価値要因ベクトルの強弱の程度で表現した。

② 環境は、自然的環境、社会的環境、物財的環境に区分し、その他、複合的環境を設けた。

価値については、心理学や哲学等においてさまざまな定義がなされている。例えば、ホワイト (White, 1951) は、価値を「ある種の対象を求めたり、認めたりしようとする傾向」、ウドラフとディベスタ (Woodruff & Divesta, 1948) は、価値を「自分の幸福に重要な影響をもつと個人が感じている生活の一般的状態」であるとした。モリスは (Morris, 1956) は、価値を自分の考案した「生き方 Way of Life」調査で測定したものであるとし、それを「個人が自分の下した結果の予測に基づいて、自分自身にとって好ましいあるいは望ましいと考えるもの」と定義づけている。

このように、価値のさまざまな定義がなされていることについて、ウィリアムス (Williams, 1968) は、最近の文献レビューのなかで、「(価値は) ひろい範囲にわたるさまざまな選択行動のなかにみられ、あるひとつの記述的な定義で、われわれの知る価値現象のすべてを完全にカバーしつくすということはほとんどありえないことである」と指摘している。しかし彼はさらに、「(こうした定義の) 限界はたいへんひろくも狭くも考えることができるが、その限界を恣意的にきめることがあってはならない。そうした境界線はそれぞれの具体的な事例に即してひかれるべきものである」といっている。¹⁾

本研究における価値観の作業仮説的定義は、「個人の生き方において、自分の幸福に重要と考える行動の価値基準」としておきたい。ここでの価値観は、個人のたてまえとしての価値観 (観念的価値観) ではなく、個人の行動原理となっている本音の価値観 (行動的価値観) を意味する。

価値観の分類については、今村和男の QOL-BED インデックスを参考にし、それを少し変形して用いることにした。その理由は、次のとおりである。

理論仮説の一つとして、幸福感と価値観、自己や環境に対する満足度との関連を設定しておいた。幸福感は、生活の質を考えるうえで重要な項目である。そのため、価値観の分類も幸福感や生活の質を明示的に意識したものが望ましい。

価値観の分類は、1970年前後より、日米両国において経験的調査データにもとづく生活者類型設定の試みとして、積極的に行なわれている。²⁾ この中で、特に生活の質と関連が強いものとして、三菱総合研究所の MRI-GOL インデックス、今村和男の QOL-BED インデックス、米国のランド研究所での GOL のファクター等がある。

三菱総合研究所では、生活の質の視点から個人の価値観 (人生観) を13種類に分類している。この方法は、チャールズ I. モリスの考え方を基礎とし、人の価値観は基本的な3個の元により構成されるとする。それらは、ディオニソス元、プロメテウス元とブダ元とである。ディオニソス元 (D) は、その時々欲求のおもむくままに思う存分行動する欲求を示し、プロメテウス元 (P) は、外界を支配し変革するために活動し努力する欲求

表 2-(2)-1 MRI-QOL インデックスの特徴的キー・ワード

MRI-QOL インデックス	特徴的キー・ワード
1. (D ₃ P ₁ B ₁)	安楽, 健康, くつろぎ, 余暇, 気楽, 居心地よい, 休息, 健全な享楽, 空腹, 気晴し
2. (D ₃ P ₁ B ₂)	官能的, 真実味, 孤独, 信仰, 許容, 開放的, 性的快楽, 性的満足, お祭り
3. (D ₃ P ₂ B ₁)	協力, 友情, 精力的な集団活動, 協同的な集団享受, 社会的受容, 役割, 必要とされること
4. (D ₃ P ₃ B ₁)	奉仕, 献身主義, 誠実, 思いやり, 参加, 役に立つ人間, 善, 謙遜, ひとびと, 巻き添え
5. (D ₁ P ₃ B ₁)	積極的な行動, 身体的エネルギーの使用, 挑戦, 競争的なこと, 野心, 勇敢, 冒険的
6. (D ₂ P ₃ B ₁)	向上, 創造, 不断の活動, 認められること, 仕事上の満足, 技術の改良, 独創性
7. (D ₁ P ₃ B ₂)	社会生活に参加, 中庸, 秩序, バランス, 常識, 礼儀, 屈辱, 争いがないこと, 保存
8. (D ₁ P ₃ B ₃)	自主独立, 高い理想の保存, 克己, 理性的, 自己の正当化, 地位, 権力
9. (D ₁ P ₁ B ₃)	自然, 受容性, やすらか, 平和, 達観, 動じない, 虚心
10. (D ₁ P ₂ B ₃)	自己認識, 自己満足, 私生活, 利己主義, 自信, 完徹, 自己規制, 反省
11. (D ₂ P ₁ B ₃)	共感的な愛, 他人への関心, 世話をすること, 同情的, 交際, 干渉, 愛他主義
12. (D ₃ P ₁ B ₃)	瞑想的, 空想, 内面生活, 思索, 自由, 適合, 制止されない, 生きるものに対する深い共感
13. (D ₃ P ₃ B ₃)	柔軟性, 多様性, 変化, すべて, 適切, ダイナミックな統合, 機知に富んだ

出典, 牧野昇編: 環境アセスメントとその手法, p.137。

である。さらに、ブッダ元 (B) は、欲求を規制することによって心の安らぎを保とうとする欲求を意味する。これらの3元の組み合わせ方で、13種の代表的な価値観が形成され、それらに QOL-1 から QOL-13 の番号を付ける。それが、表 2-(2)-1 である。

今村和男の QOL-BED インデックスは、上述の三菱総合研究所の分類法を少し変形したものである。MRI-QOL では、人の価値観は、基本的に3個の元により構成されているとみなし、これらを3次元空間の直交3軸に対応させる方法をとる。これを、視覚的に考察しやすいように、2次元空間で表現する手法を工夫したのが、QOL-BED インデックスである。(表 2-(2)-2, 図 2-(2)-1)

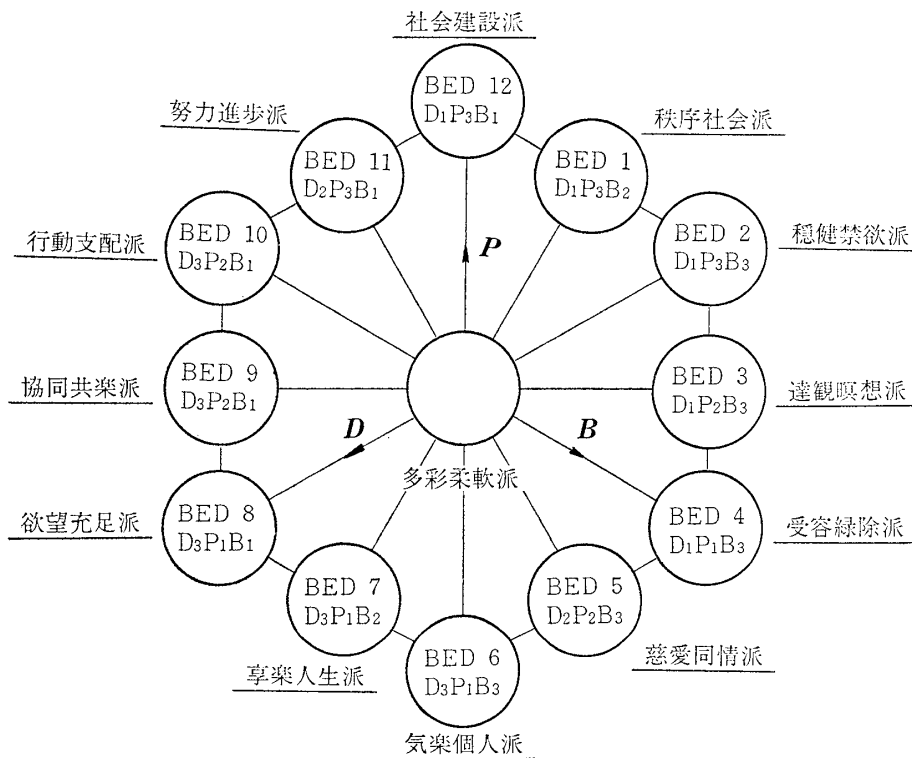
アメリカのシンク・タンクであるランド研究所 (The Rand Corporation) においても、QOL (生活の質) の研究は古くから行なわれていた。その中にQOLを計る最も重要なファクターが何であるかの決定をデルファイ法で行なった研究結果の報告がある。この研究は、生活の特色をあらわす様々な単語を、類似語や同意語として統合し、生活の質をあ

表 2-(2)-2 QOL-BED インデックス

BED	基 調 と な る 生 活	象徴的表現	要因構成
1	私は、社会生活に積極的に参加したい。それは、社会の変革を求めからではなく、人間のすばらしさを感じたいからである。しかし、自己の欲求を満たしつつ安楽に生きようとは思っていない。慎しみと知性をもって秩序ある社会生活を送りたい。	秩序社会派	D ₁ P ₃ B ₂
2	私は、自己の内面を見つめつつ社会生活を送りたい。冒険的な行動や世俗的な欲望は慎しみ、また、隣人への愛とか社会奉仕へのものめりこまない。ひたすら自分の心の平静を保つことによって、穏健な社会生活を送りたいと思っている。	穏健禁欲派	D ₁ P ₃ B ₃
3	私は、自分自身の精神的な充実を重視して生活したい。社会を変革したり自然を支配することは望まないし、また、欲求のおもむくまま安楽に暮らすことも望まない。ひたすら自己の修養に努めて、悟りの境地を追究する内面的生活を送りたい、と思っている。	達観瞑想派	D ₁ P ₂ B ₃
4	私は、大自然の理法を受け入れて生きたい。欲望、行動、社会、知性、愛、それらのどれにもとらわれることなく、やすらかに心を開くとき、おのずと体内に満ちてくるものがある。それを受け入れることによって、やすらかな喜びが得られる。	受容緑陰派	D ₁ P ₁ B ₃
5	私は、他人への思いやりや愛を大切にして生きたい。人生を豊かにするものは、知性や行動ではなく、共感的な愛である。だから、そのためには、社会を超越することがあって良いと思う。同情の気持を忘れず、他を尊重して生きたい、と思っている。	慈愛同情派	D ₂ P ₁ B ₃
6	私は、気楽な生活を送りたい。自己の修養、他人との協力、社会の建設、あるいは、自己の欲望を満たすために努力することなどは好まない。多くを望まず、日々の暮らしを気楽に送っていれば、それがおのずから幸福な人生につながる、と思っている。	気楽個人派	D ₃ P ₁ B ₃
7	私は、人生の楽しみを進んで享受したい。人もまた、それぞれ自分の気持に従って楽しむはよい。だから、他から規制されることは望まないし、他へ要求することもない。社会や他人とのかかわり合いを避け、時として瞑想的に、時として感覚的に楽しみたい。	享楽人生派	D ₃ P ₁ B ₂
8	私は、積極的に人生の楽しみや喜びを追求したい。それらは、節度ある生活や単なる気楽な生活、あるいは社会に建設的に参加することからは得られない。その時どきの欲求のおもむくままに、思う存分行動し、欲望を充足した時に得られる、と思っている。	欲望充足派	D ₃ P ₁ B ₁
9	私は、他の人々と協力して楽しい人生を送りたい。自己の内面的生活や秩序ある社会の建設、あるいは個人的な気楽な生活よりも、他人と共に活動し、共感し、喜び、楽しむことを望む。人々は協同の目的を実現するために協力すべきだ、と思っている。	協同共楽派	D ₃ P ₂ B ₁
10	私は、行動的な生活を送りたい。穏健な思想や安楽な生活、あるいは他人への同情などより、勇敢で冒険的な生活が良い。身体的エネルギーを用いて積極的に活動することによって、障害を圧倒し、支配し、征服する。この中にこそ、人生の喜びはある。	行動支配派	D ₂ P ₃ B ₁
11	私は、活動的な社会生活を送りたい。内面的生活や享楽的な生活は望まない。それよりは、種々の問題の具体的な解決をはかるために努力し、活動することの方が好きだ。科学や技術を発展させて社会を進歩させるために、たえず努力したい、と思っている。	努力進歩派	D ₂ P ₃ B ₁
12	私は、建設的な社会生活を送りたい。気楽な個人的生活は望まない。厳しい自然や社会の内であっても、人間の理性を信じて、外界を支配し変革するために努力し活動したい。理想を保持し合理的な行動をすることによって、人間の気品と尊厳が保たれる、と思う。	社会建設派	D ₁ P ₃ B ₁
13	私は、柔軟性のある生活を送りたい。人生をひとつの目的や価値観や生活様式で貫くことは、かたよった生き方だと思う。自分自身のうちに多様性を養い、時と場合に応じて柔軟な生活態度がとれることが大切だ、と思っている。	多彩柔軟派	D ₂ P ₂ B ₂

出典、今村和男編：システム分析，pp.178～179。

図 2-(2)-1 QOL-BED インデックスの相互関係



出典，今村，前掲書，p.180。

らわすファクターとして収束させようとしたものである。その結果によると、当初 250 の単語からスタートして、最終的には13の特色のあるグループとして分類することができた。(表 2-(2)-3)

以上述べた三つの研究は、共通点が多いが本研究では、個人の価値観を視覚的に表現しやすいことを考慮して、今村和男の行なった分類法を少し変形して用いることにした。

表 2-(2)-2 を見ても分かる通り、基調となる生活の説明的記述は、観念的価値観を示している。それを、行動的価値観の表現形態に変形した。例えば、BED-5(慈愛同情派)は、「私は、他人への思いやりや愛を大切にしている。人生を豊かにするものは、知性や行動ではなく、共感的な愛である。だからそのためには、社会を超越することがあっても良いと思う。同情の気持を忘れず、他を尊重して生きたいと思っている。」とした。

「環境」という言葉は、哲学，社会学，心理学，生物学，経済学等々、あらゆる分野で使用され、それぞれ各人各様に定義がなされている。例えば、都市計画学において、環境とは、「生活体に対する有効な刺激の場であるとともに、生活体が占有する上で適合した空間。具体的には、風土，気象，地形，地質，水，食物，あるいは外敵の存在等，その生活にとってプラスおよびマイナスの効果をもつすべての刺激体系」。³⁾

経済学においては、「一般に個々の経済主体によって私有することが制度的に認められないか、私有することが現実の問題として不可能に近いような資源。経済学上の用語で、

表 2-(2)-3 デルファイ法による QOL ファクター

デルファイ法によって決められた QOL ファクター (ランド研究所)
1. 愛, 世話をすること, 愛情, 個人間の理解, 友情, 交際, 正直
2. 自尊心, 自認, 自己満足, 自信, 利己主義, 安全, 安定, 親密さ, 永続感, 自覚, 自意識, 成長
3. 心の平和, 情緒の安定, 争いがないこと, 恐れ, 不安, 苦勞, 苦痛, 屈辱, 軽視, 脱出, 幻想
4. 誠実, 真実味, 寛容, 包容力, 信仰, 宗教心性, 性的満足, 性的快樂
5. 挑戦, 刺激, 競争, 競争的なこと, 野心, 機会, 社会的流動性, 運, 教育的, 知的刺激のある
6. 社会的受容, 大衆性, 必要とされている, 求められる感じ, 孤独, 非個人的なこと, おべっか, 積極的フィードバック補強
7. 成就, 遂行, 仕事上の満足, 成功, 失敗, 敗北, 失うこと, 金, 獲得欲, 物質的貧欲, 地位, 名声, 認められること, 威信
8. 個別性, 適合, 自発性, 衝動的, 制止されない, 自由
9. 巻き添え, 参加, 関心, 愛他主義, 思いやり
10. 安楽, 経済的幸福, くつろぎ, 余暇, 健康
11. 珍しさ, 変化, 新しさ, 多様, 驚き, 退屈, ユーモラス, おかしさ, 機知に富んだ
12. 権勢, 優越, 依存, 無気力, 無力, 不当な攻撃, 暴力, 敵意, 権力, 管理, 独立
13. プライバシー

出典, 牧野, 前掲書, p.135。

社会共通資本をいう。⁴⁾

また, 行政学では, 「人間又は生物を取りまき, それと相互作用を及ぼし合うところの外界の内, 市民の要求に影響を与える一切の社会的, 経済的, 政治的要因を含むもの。自然的環境と社会的環境に分けることができるが, 行政体系の環境では自然環境は重要性, 関連性が少ない。」⁵⁾

このように, 環境を定義する場合, 各々の立場において重点の置き方が違っている。本研究では, 環境とは, 「個人又は集団に直接的, 間接的に影響を与える外界」と定義しておこう。

環境の分類も環境の定義と同様, 多様性に富んでいるが, ここでは, 基本的に次の三つに区分する。

① (自然的環境)

〔1〕 人間生活の立地条件や基盤としての自然そのもの。

〔2〕 人間生活が改造したり, 再生産させた自然。

② (社会的環境)

〔1〕 人間生活が直接又は間接的に接触する集団的生活保持体系としての社会。

〔2〕 情報を通して経験する文化的環境。

③ (物財的環境)

〔1〕 人間生活拡充のために作り出した技術体系としての物財環境 (道具的環境)

〔2〕 人間生活の共同保持のために維持している生活環境施設体系。

〔3〕 その他, 日常生活で使用する物品。

その他として, 各環境の複合的環境を設定した。

3. 調査の方法と集計結果

予備調査は, 昭和59年9月, 筑波研究学園都市の並木住宅地区の主婦50人を対象に留置き法 (調査票を各対象者の所に届け, 後日対象者が記入したものを回収する方法) で行なった。回収率は98% (49人) である。その調査結果をもとに調査票を少し修正した。

本調査は, 昭和60年9月, 筑波研究学園都市の並木住宅地区の主婦と主人それぞれ100人を対象に留置き法で行なった。回収率は, 主婦80% (80人), 主人60% (60人) である。

調査の対象地域は, 環境満足度は環境条件によっても左右されるので, 住宅や地域の環境条件が同一の筑波研究学園都市住宅地区の一つである並木を選択した。

調査項目は, 環境に関する24項目, 価値観に関する14項目, 自分自身に関する8項目, その他として4項目を設定した。(表3-1~表3-4, 付属資料の調査票を参照のこと。)

アンケートの質問形式は, 5段階評定法である。(環境満足度は, かなり不満足, やや不満足, どちらともいえない, やや満足, かなり満足の5段階, 価値観は, かなりへだたりを感じる, ややへだたりを感じる, どちらともいえない, ややあてはまる, かなりあてはまるの5段階の設定である。)

この中の価値観を調査する方法としては, 間接法と直接法が考えられる。間接法とは, 日常生活で行なう種々の具体的な行動 (例えば, テレビを良く見る) への適合度を測定し, それを集約再計算して価値観得点を求める方法である。この方法は, 解答しやすいという利点があるが, 調査項目が多くなり再計算の手順も複雑になりやすいという欠点がある。

直接法には, 価値観の内容を直接的に記述して, それへの適合度を問うという方法である。これは, 間接法に比較すると設問が抽象的になり, ある程度の自己分析が必要となるが, 調査項目が価値観の種類の数だけで良く, その結果に複雑な加工計算を行なう必要もないという利点がある。

本研究においては, 調査対象が研究学園都市の住宅地区の住人であることを考えて, 直接法を用いることにした。

表 3-1 環境に関する項目

(自然的環境)
(1) 家のまわりの自然環境
(社会的環境)
(1) 現在の収入 (家族全体) (2) 現在の余暇 (時間的余裕) (3) 保健・医療の施設やサービス (4) 並木における人間関係 (5) 各種相談・苦情処理機関の整備及び住民意思の反映 (6) 交通事故・犯罪・災害からの安全性 (7) ゴミ収集 (8) 日本の社会保障 (9) 日本の政治 (10) 日本の裁判制度 (11) 物価
(物財的環境)
(1) 並木の上下水道 (2) 並木の道路 (3) あなたの住んでいる住宅 (4) 交通機関の便利さ (5) 地域の学校, 図書館, 公民館などの教育・文化施設 (6) レジャー施設 (7) 買物距離 (8) 商店街品揃え
(複合的環境)
(1) 住んでいる地域環境 (並木) (2) 静けさ (3) 周辺の景色 (4) 環境全般

表 3-2 自分自身に関する項目

(1) 性格 (2) 健康 (3) 自分の生き方 (4) 家事・育児や仕事に対する能力 (5) 容姿 (6) 幸福感 (7) あなたの過去一年間の生活における苦しみの程度 (8) あなたの過去一年間の生活における喜びの程度
--

表 3-3 価値観に関する項目

(1) 秩序社会派
(2) 穏健禁欲派
(3) 達観瞑想派
(4) 受容緑陰派
(5) 慈愛同情派
(6) 気楽個人派
(7) 享楽人生派
(8) 欲望充足派
(9) 協同共楽派
(10) 行動支配派
(11) 努力進歩派
(12) 社会建設派
(13) 多彩柔軟派
(14) あなたの実際的な生き方と観念的な理想的な生き方とのあてはまりの程度について

単純集計結果は、付属資料のとおりである。環境満足度に対しては、主人と主婦の反応の分布はほぼ同じで、自然環境、道路、地域環境等が満足度が高く、それに対し、交通機関、物価、収入、日本の政治や社会保障等は不満が高くなっている。

自分自身に対する項目への満足度は、これも、主人と主婦を比較すると大きな違いはなく、幸福感や自分の生き方への満足度が高くなっている。

価値観に対しては、主人と主婦の共通点はその時々欲求のおもむくままに思う存分に行動するタイプの価値観（享楽人生派、気楽個人派、行動支配派、欲望充足派）への適合度の平均値が低いことである。また、多彩柔軟派は両者とも適合度がトップである。相違点は、主人が努力進歩派へ上位の適合度を示すのに対して、主婦は、秩序社会派への適合度が高いことである。

表 3-4 その他

(1) あなたの年齢
(2) 家族数
(3) コミュニティ活動
(4) 世帯の全収入

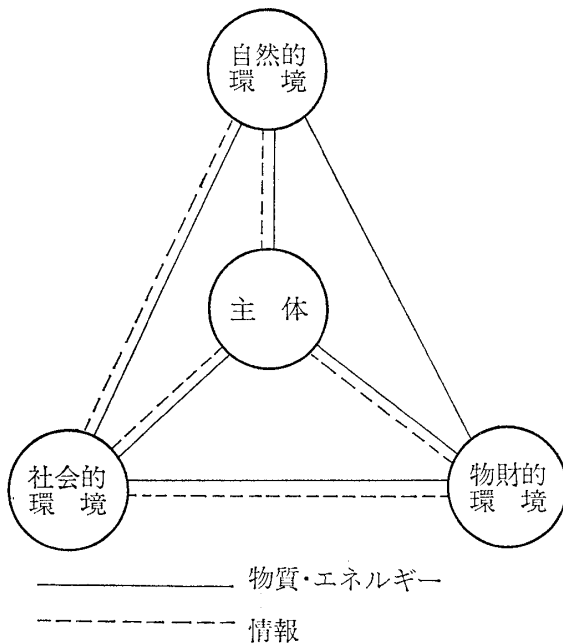
4. 環境満足度と価値観の関連

(1) 理論仮説

本論では、主体と環境の基本的な関係を図 4-(1)-1 のように考える。これは、主体と環境が、物質・エネルギー・情報を媒介としながら、相互に変換・影響しあう主体環境系を示している。

このように、主体は、環境から常に影響を受けているが、同一の環境条件において異なる

図 4-(1)-1 主体と環境の関係



った個性が形成・表現されるのは、主体的要因によるものと考えられる。(図 4-(1)-2)

本章では、この関係の範囲を限定して、環境満足度の個人差と価値観の関連を分析してみたい。(図 4-(1)-3) なお、個人的属性として、価値観の他に性別、年齢、収入等いくつかあげられるが、これらは価値観に集約されているものとする。

図 4-(1)-2 個性の形成と表現

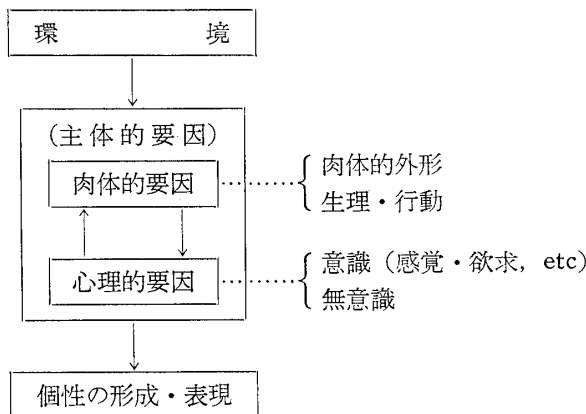
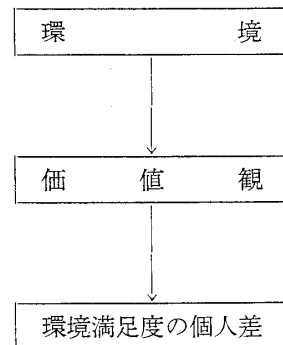


図 4-(1)-3 環境満足度の個人差



(2) 作業仮説

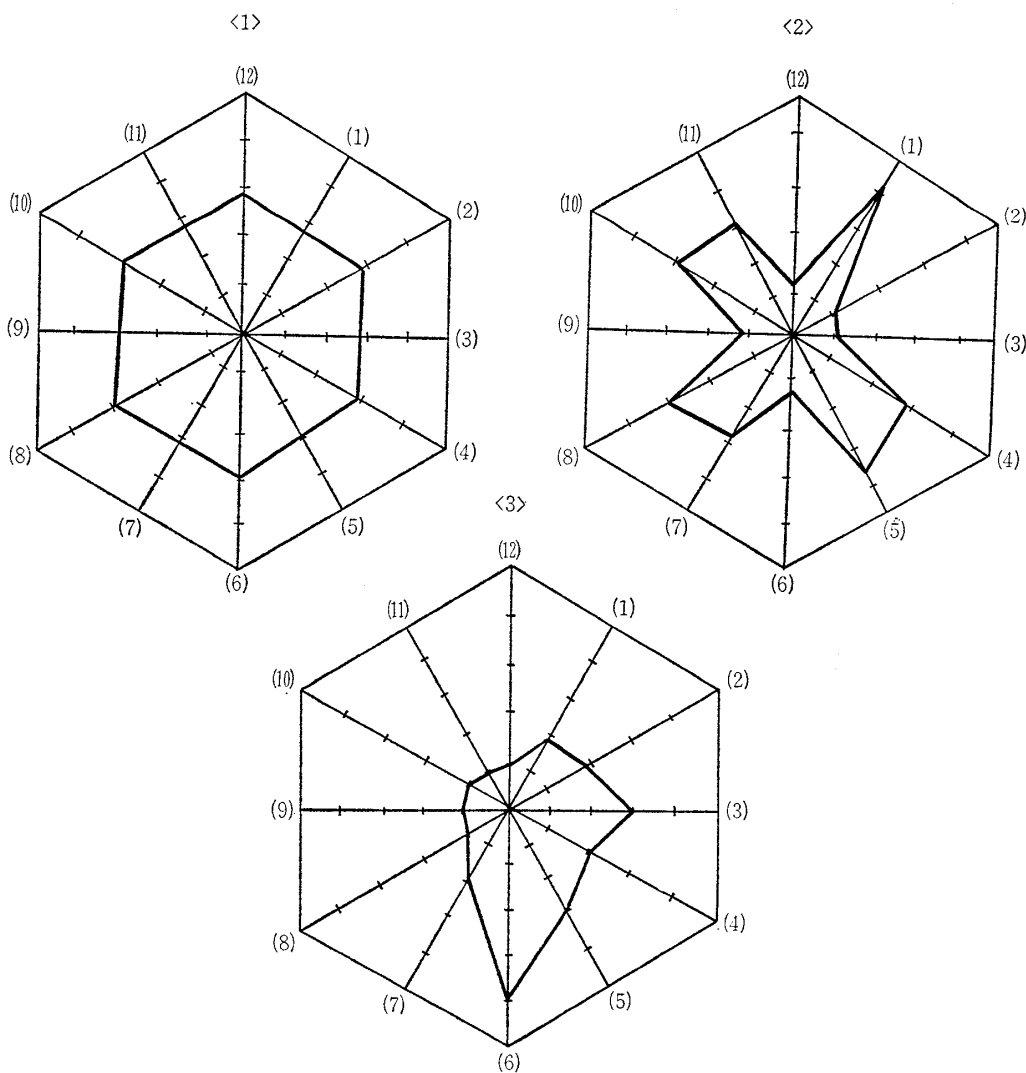
2章の仮説の設定のところで、作業仮説として個人の価値観は、12の価値要因ベクトルの強弱の程度で表現すると述べておいた。このような価値観の分析手法に対する考え方は三菱総合研究所と同様な立場にたつ。

すなわち、従来の価値観分析手法では、一個人の価値観を一つの主要な価値観に結びつけていて、ともすると無理矢理に一人の人間の価値観を一つときめつけていたようなところがあった。しかし、ここでは、一個人の価値観を12種類の価値要因ベクトルの分布によって表現する方式をとる。従って、一人の人間をサンプリングした場合、その人間は一人

でいくつも異なった価値観要因を重ね合わせて有してよいのであり、無理に一つの種類の価値観に固定するのを避けている。いい換えると誰でもすべての価値観要因を有する可能性が考えられるのであるが、ある時点においては、その強度分布によって、行動的、心理的傾向性の特徴がでるという柔軟な考え方を採用している。このような分布によって表現できる価値観は、一人一人の「価値観スペクトル」とも呼べるであろう。

個人の価値観スペクトルは、ある種の間人では、その12種の価値要因に対して非常に強弱の激しいスペクトルを示し、また、ある種の間人では、12種の価値要因全部に対して一

図 4-(2)-1 価値観スペクトル



様に強度を分布させたスペクトルを示す。

後者のように一様な強度分布を示す価値観スペクトルを示す人が、QOL-BED-13（多様性に重きをおく価値）という価値観の持ち主ということになる。個人の価値観スペクトルを、2次元空間で表示する場合は、その価値観ベクトルは含まれない。つまり、13のベクトルは必要でなく、12のベクトルで完全に表現できるのである。ただし、調査票には検証用として13番目の価値観も設定してある。

次に、今回の調査結果における価値観スペクトルの例を示そう。図4-(2)-1がそれである。代表的なケースを3つ選択した。1～12の番号は、付属資料の調査票の価値観に関する項目に付された番号に対応している。

〈1〉のケースは、多彩柔軟派の典型的な例である。〈2〉は、凹凸の多いケースである。〈3〉は、なめらかな線を描き、特定の価値観に傾いている例である。

観念的価値観を、同様な価値観分類法で調査したのが今村である。彼は、QOL-BEDインデックスにより、実際に人々の観念的価値観を分類できるか否かを確かめる目的で防衛大学の研究科および本科の学生と防衛庁技術研究本部の研究員52人を対象に、アンケートを行なった。その結果は、51人全員が〈3〉のような分布を示したというのである。これは、生き方の理想像であり、実際的な生活の仕方は〈1〉や〈2〉のように多面的である場合が少なくないだろう。本研究の調査結果では、特定の価値観に傾いているケース

表4-(2)-1 価値観の因子（主人）

ランキング	第1因子		第2因子		第3因子	
	ブッダ因子		ディオニソス因子		プロメテウス因子	
	固有値	2.893	固有値	2.267	固有値	1.811
	寄与率	24.11%	寄与率	18.9%	寄与率	15.09%
	累積寄与率	24.11%	累積寄与率	43.01%	累積寄与率	58.10%
1	達観瞑想派	0.82320	欲望充足派	0.86118	努力進歩派	0.88952
2	秩序社会派	0.74212	享楽人生派	0.85658	社会建設派	0.79108
3	隠健禁欲派	0.71024	気楽個人派	0.69859	行動支配派	0.53477
4	受容緑陰派	0.69529	行動支配派	0.39854	協同共楽派	0.41366
5	慈愛同情派	0.41715	達観瞑想派	0.14873	秩序社会派	0.24137
6	気楽個人派	0.34399	受容緑陰派	0.13467	慈愛同情派	0.20291
7	行動支配派	0.25360	隠健禁欲派	0.10368	欲望充足派	0.00232
8	協同共楽派	0.13057	努力進歩派	0.02242	隠健禁欲派	-0.00856
9	享楽人生派	0.06336	慈愛同情派	-0.01524	気楽個人派	-0.08869
10	努力進歩派	0.00165	社会建設派	-0.13234	達観瞑想派	-0.09836
11	欲望充足派	-0.14893	秩序社会派	-0.22022	享楽人生派	-0.11203
12	社会建設派	-0.17731	協同共楽派	-0.23730	受容緑陰派	-0.15486

注) 各価値観の右側の数字は、因子負荷量である。

表 4-(2)-2 価値観の因子 (主婦)

ラン キン グ	第 1 因子		第 2 因子		第 3 因子	
	プロメテウス因子		ディオニソス因子		ブ ッ タ 因子	
	固有値	2.991	固有値	2.096	固有値	2.026
	寄与率	24.92%	寄与率	17.47%	寄与率	16.88%
	累積寄与率	24.92%	累積寄与率	42.39%	累積寄与率	59.27%
1	行動支配派	0.82645	享楽人生派	-0.81211	達観瞑想派	0.76431
2	努力進歩派	0.76877	欲望充足派	-0.80469	隠健禁欲派	0.68892
3	社会建設派	0.72120	気楽個人派	-0.70914	秩序社会派	0.65519
4	協同共楽派	0.71530	行動支配派	-0.22344	受容緑陰派	0.58999
5	慈愛同情派	0.50774	受容緑陰派	-0.15384	慈愛同情派	0.48512
6	欲望充足派	0.16861	隠健禁欲派	-0.11235	気楽個人派	0.07066
7	受容緑陰派	0.11010	達観瞑想派	-0.04751	享楽人生派	0.04158
8	秩序社会派	-0.03175	慈愛同情派	-0.03970	欲望充足派	-0.00026
9	達観瞑想派	-0.07469	社会建設派	-0.01759	社会建設派	-0.00379
10	享楽人生派	-0.10583	協同共楽派	0.19009	協同共楽派	-0.00971
11	気楽個人派	-0.18428	努力進歩派	0.23219	行動支配派	-0.01841
12	隠健禁欲派	-0.45242	秩序社会派	0.38792	努力進歩派	-0.18011

は140人中60人だけであった。

このようなスペクトル法は、少ないサンプルでもデータを有効に使える。例えば、100人の有効解答者のデータを使用して分析する場合、各価値観のサンプル数はそれぞれ100となる。

今回の価値観に関する調査の方法は、12種類の価値観の記述の内容にどの程度適合しているかを各人に適合度の選択番号に○をつけてもらうことによって行なった。その調査結果に因子分析を試みると、表 4-(2)-1、表 4-(2)-2 のような因子が抽出された。

ブッダ因子とは、欲求を規制することによって心の安らぎを保とうとする欲求、ディオニソス因子とは、その時々欲求のおもむくままに思う存分に行動する欲求、プロメテウス因子とは、外界を支配し変革するために活動し努力する欲求である。

これらの因子は、イギリスの心理学者、チャールズ・モリスの三つの「価値の基本的次元」と一致する。もともと、本研究で用いた価値観の分析法は、チャールズ・モリスの研究を発展させたものなので、このような因子が抽出されたことは、価値観の分類と調査結果の信頼性が高いことを示すといえよう。

(3) 価値観と環境満足度の関連

価値観と環境満足度の関連を分析する場合、環境満足度は客観的水準によっても左右されるので、分析対象を同一の境域に限定した。そのため、収入と余暇、人間関係、環境全

般の項目は除外している。

両者の関連を分析するため相関係数を求め5%の検定水準で有意とみなされたもの、また、その中から疑似相関と思われるものを除いて表にしたのが表4-(3)-1、表4-(3)-2である。

表4-(3)-1 環境満足度と価値観の関連(主婦)

環 境	価 値 観	相 関 係 数	関 連 の 意 味
・家のまわりの自然環境	気楽個人派	-0.35	もっと自然に恵まれた所で気楽に暮らしたい。
・保健・医療の施設やサービス	行動支配派	0.30	健康で行動的な人は、保健・医療に対する満足度が高い。
・住民意思の反映	気楽個人派	0.41	気楽に生活を送っているので、住民としての不満も少ない。
//	協同協楽派	-0.31	地域の人々と協力して、もっと住民意思の反映を高めたい。
・日本の裁判制度	秩序社会派	0.32	社会の秩序維持のための日本の裁判制度には、まあ、満足している。
・物 価	享楽人生派 欲望充足派	0.32 0.28	生活は、快適で物価に対する不満も比較的少ない。
・交通機関の便利さ	行動支配派	0.30	行動のための交通手段を備えている。
・住んでいる地域環境(並木)	欲望充足派	-0.27	より以上の快適な地域環境への欲望が強い。
・周辺の景色	//	-0.28	景色への欲求が強い。

表4-(3)-2 環境満足度と価値観の関連(主人)

環 境	価 値 観	相 関 係 数	関 連 の 意 味
・保健・医療の施設やサービス	行動支配派	0.42	健康で行動的な人は、保健・医療に対する満足度が高い。
・住民意思の反映	享楽人生派	0.47	生活は快適で不満が少ない。
・安全性	//	0.30	// 安全である。
・日本の社会保障	//	0.29	// 社会保障に対する不満も少ない。
・日本の政治	//	0.38	// 政治に対する不満も少ない。
・物 価	//	0.43	// 物価に対する不満も比較的少ない。
・交通機関の便利さ	行動支配派	0.35	行動のための交通手段を備えている。
・景 色	欲望充足派	-0.29	景色への欲求が強い。

例えば、主人の住民意思の反映と享楽人生派の関連をみてみよう。享楽人生派への適合度が高い人は、人生の楽しみを積極的に享受しているので、生活は快適で不満が少ない。そのため、地域における住民意志の反映に対しても相対的に不満が少ないと考える。(正の相関)

価値観と環境満足度の関連において、主婦と主人の相違は、主人は、日本の社会保障、日本の政治等のマクロ的な環境に関連がみられ、それに対して主婦は、家のまわりの自然環境、地域等の日常の生活で接する時間の多い項目に関連がみられる。

逆に、主婦と主人の共通点としては次の三点があげられる。①物財的環境より社会的環境の項目への関連が多いこと、②価値観の種類としてブッダ因子の強い価値観(達観瞑想派、隠健禁欲派、受容緑陰派、秩序社会派)との関連が殆どない。③主人と主婦において環境と価値観の関連が同じものは、保健・医療の施設やサービス：行動支配派、物価：享楽人生派、交通機関の便利さ：行動支配派、周辺の景色：欲望充足派の4項目である。

その理由は、①は、価値観は、物質的なものよりも文化に多くその関連が表われやすいこと、②は、ブッダ因子(欲求を抑制する生き方)は、環境に対する不満も少ないが、欲求充足に伴う喜びも高くないため、満足・不満足どちらにも関連がないと考える。

次に、全体的な特徴を分析するために環境と価値観の変数で因子分析を行なった。なお、変数として収入、余暇、人間関係、環境全般を除いて他の項目の適合度を加算した総合的環境満足度変数を新たに付け加えた。

分析の結果は、表4-(3)-3、表4-(3)-4のようになり、1軸は総合的環境満足度、3軸は欲求抑制型—欲求充足型と命名した。この表の因子負荷量をプロットしたのが図4-(3)-1である。

この図から、総合的環境満足度に対しては、欲求抑制型の価値観の適合度が高い人は欲求充足型との比較において、相対的に関連が低いことが分かる。

満足度を高め、あるいは不満を少なくするためには、欲求を充足するか欲求そのものを抑制するという二つの方法が考えられる。今回のケースにおいては、満足度を高める要因として抑制型よりも充足型の方が相対的に高い関連を示すことが分かった。1軸と3軸の相関係数は、主人が -0.48 、主婦は -0.38 である。それ以外の因子間においては、相関はみられなかった。

表 4-(3)-3 環境と価値観の因子分析(主人)

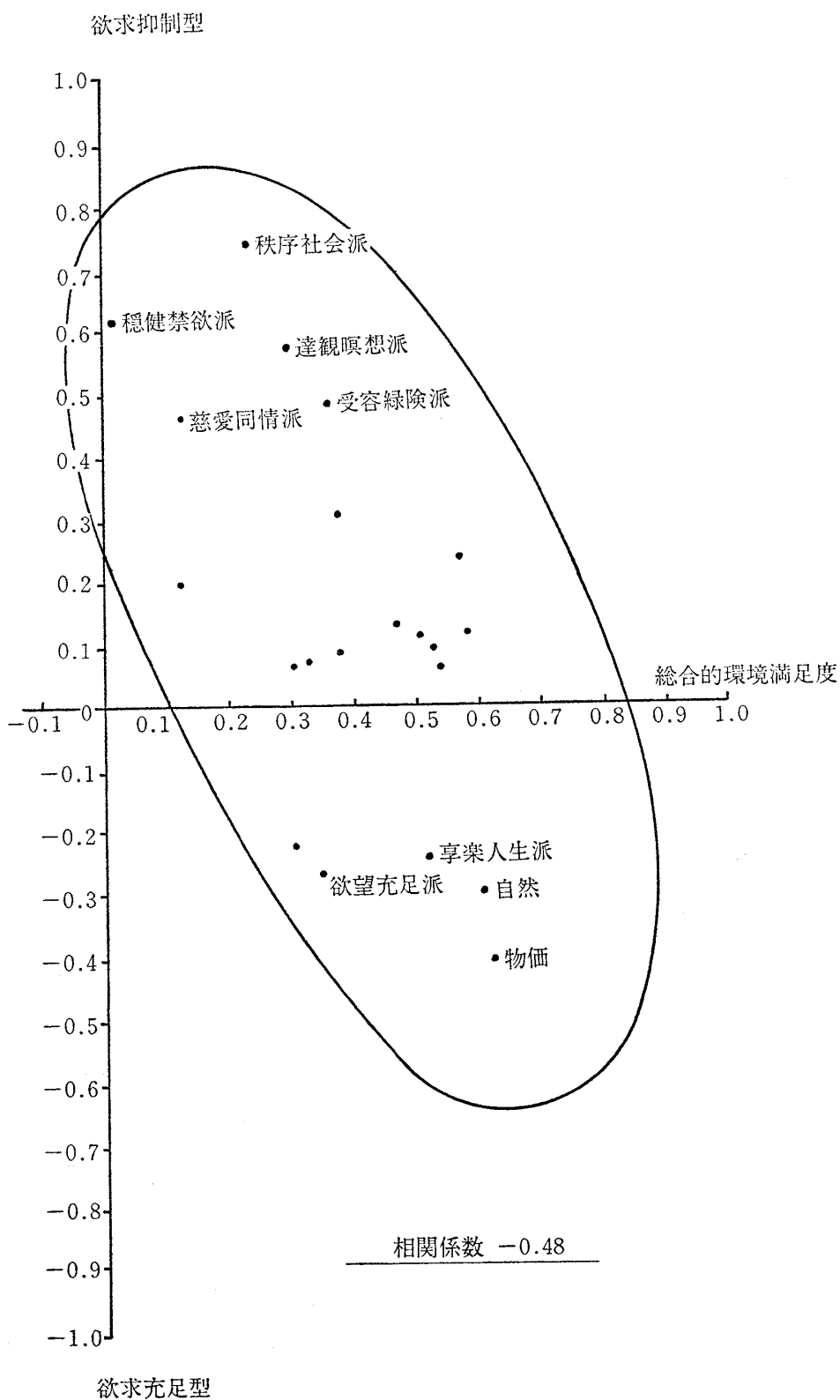
ラン キン グ	第 1 因子		第 2 因子		第 3 因子	
	総合的環境満足度		個人的因子		欲求抑制型	
	固有値	7.267	固有値	3.353	固有値	2.754
	寄与率	21.37%	寄与率	9.87%	寄与率	8.1%
	累積寄与率	21.37%	累積寄与率	31.24%	累積寄与率	39.34%
1	総合的環境満足度	0.973	気楽個人派	0.651	秩序社会派	0.756
2	日本の政治	0.724	享楽人生派	0.590	隠健禁欲派	0.611
3	物価	0.607	欲望充足派	0.535	達観瞑想派	0.581
4	家のまわりの自然環境	0.603	隠健禁欲派	0.425	受容緑陰派	0.486
5	日本の社会保障	0.593	住民意志の反映	0.348	慈愛同情派	0.484
6	保健・医療の施設やサービス	0.584	達観瞑想派	0.340	協同共楽派	0.334
7	買物距離	0.575	多彩柔軟派	0.338	行動支配派	0.315
8	住んでいる地域環境(並木)	0.570	並木の上下水道	0.308	交通機関の便利さ	0.250
9	交通機関の便利さ	0.568	受容緑陰派	0.243	努力進歩派	0.199
10	商店街品揃え	0.540	物価	0.234	教育・文化施設	0.137
11	住民意志の反映	0.534	日本の社会保障	0.229	買物距離	0.132
12	安全性	0.518	日本の裁判制度	0.148	保健・医療の施設やサービス	0.127
13	享楽人生派	0.513	日本の政治	0.141	レジャー施設	0.107
14	あなたの住んでいる住宅	0.511	ゴミ収集	0.051	安全性	0.102
15	レジャー施設	0.495	並木の道路(歩道及び車道)	0.050	静けさ(あなたの住いの周辺)	0.087
16	教育・文化施設	0.473	行動支配派	0.041	周辺の景色	0.073
17	日本の裁判制度	0.469	秩序社会派	0.027	商店街品揃え	0.069
18	並木の道路(歩道及び車道)	0.418	慈愛同情派	-0.008	気楽個人派	0.067
19	行動支配派	0.381	保健・医療の施設やサービス	-0.025	社会建設派	-0.021
20	静けさ(あなたの住いの周辺)	0.380	安全性	-0.032	住民意志の反映	-0.036
21	受容緑陰派	0.361	あなたの住んでいる住宅	-0.083	日本の裁判制度	-0.040
22	並木の上下水道	0.341	協同共楽派	-0.118	並木の上下水道	-0.058
23	欲望充足派	0.336	交通機関の便利さ	-0.120	総合的環境満足度	-0.060
24	周辺の景色	0.319	商店街品揃え	-0.148	日本の政治	-0.095
25	気楽個人派	0.304	買物距離	-0.168	あなたの住んでいる住宅	-0.107
26	多彩柔軟派	0.304	総合的環境満足度	-0.177	日本の社会保障	-0.133
27	達観瞑想派	0.287	努力進歩派	-0.185	ゴミ収集	-0.183
28	秩序社会派	0.216	社会建設派	-0.266	住んでいる地域環境(並木)	-0.187
29	ゴミ収集	0.179	レジャー施設	-0.339	並木の道路(歩道及び車道)	-0.197
30	社会建設派	0.139	教育・文化施設	-0.361	多彩柔軟派	-0.216
31	慈愛同情派	0.122	家のまわりの自然環境	-0.364	享楽人生派	-0.238
32	努力進歩派	0.120	住んでいる地域環境(並木)	-0.492	欲望充足派	-0.282
33	隠健禁欲派	0.012	周辺の景色	-0.533	家のまわりの自然環境	-0.303
34	協同共楽派	-0.119	静けさ(あなたの住いの周辺)	-0.572	物価	-0.400
			社会的因子		欲求充足型	

注) 各項目の右側の数字は、因子負荷量である。

表 4-(3)-4 境境と価値観の因子分析(主婦)

ラ ン キ ン グ	第 1 因 子		第 2 因 子		第 3 因 子	
	総合的環境満足度		社会的因子		欲求充足型	
	固有値	5.502	固有値	3.468	固有値	2.901
	寄与率	16.18%	寄与率	10.20%	寄与率	8.53%
	累積寄与率	16.18%	累積寄与率	26.38%	累積寄与率	34.91%
1	総合的環境満足度	0.974	努力進歩派	0.650	欲望充足派	0.641
2	交通機関の便利さ	0.659	協同共楽派	0.644	行動支配派	0.601
3	保健・医療の施設やサービス	0.626	行動支配派	0.521	物価	0.492
4	買物距離	0.606	社会建設派	0.494	享楽人生派	0.467
5	住んでいる地域環境(並木)	0.599	慈愛同情派	0.305	社会建設派	0.455
6	レジャー施設	0.598	周辺の景色	0.278	気楽個人派	0.394
7	あなたの住んでいる住宅	0.598	家のまわりの自然環境	0.278	保健・医療の施設やサービス	0.373
8	教育・文化施設	0.526	買物距離	0.190	努力進歩派	0.340
9	家のまわりの自然環境	0.484	住んでいる地域環境(並木)	0.186	協同共楽派	0.274
10	商店街品揃え	0.482	静けさ(あなたの住いの周辺)	0.145	交通機関の便利さ	0.219
11	並木の道路(歩道及び車道)	0.468	商店街品揃え	0.136	住民意志の反映	0.197
12	ゴミ収集	0.424	並木の上下水道	0.135	慈愛同情派	0.179
13	静けさ(あなたの住いの周辺)	0.388	レジャー施設	0.123	並木の上下水道	0.152
14	日本の裁判制度	0.355	多彩柔軟派	0.108	多彩柔軟派	0.114
15	周辺の景色	0.353	並木の道路(歩道及び車道)	0.096	並木の道路(歩道及び車道)	0.112
16	行動支配派	0.311	交通機関の便利さ	0.040	日本の社会保障	0.105
17	住民意志の反映	0.298	教育・文化施設	-0.033	あなたの住んでいる住宅	0.077
18	日本の政治	0.296	総合的環境満足度	-0.037	レジャー施設	0.070
19	日本の社会保障	0.282	受容緑陰派	-0.041	日本の裁判制度	0.065
20	秩序社会派	0.262	あなたの住んでいる住宅	-0.043	日本の政治	0.024
21	隠健禁欲派	0.214	秩序社会派	-0.123	安全性	-0.012
22	並木の上下水道	0.202	保健・医療の施設やサービス	-0.137	総合的環境満足度	-0.016
23	受容緑陰派	0.197	安全性	-0.183	教育・文化施設	-0.028
24	安全性	0.182	欲望充足派	-0.240	買物距離	-0.031
25	努力進歩派	0.132	日本の社会保障	-0.274	達観瞑想派	-0.071
26	達観瞑想派	0.125	日本の政治	-0.290	商店街品揃え	-0.072
27	気楽個人派	0.116	達観瞑想派	-0.300	受容緑陰派	-0.092
28	慈愛同情派	0.090	ゴミ収集	-0.315	ゴミ収集	-0.128
29	物価	0.088	日本の裁判制度	-0.316	隠健禁欲派	-0.213
30	協同共楽派	0.075	物価	-0.342	秩序社会派	-0.278
31	欲望充足派	0.022	住民意志の反映	-0.386	家のまわりの自然環境	-0.330
32	享楽人生派	0.012	享楽人生派	-0.420	静けさ(あなたの住いの周辺)	-0.364
33	社会建設派	-0.018	気楽個人派	-0.550	住んでいる地域環境(並木)	-0.433
34	多彩柔軟派	-0.306	隠健禁欲派	-0.614	周辺の景色	-0.441
			個人的因子		欲求抑制型	

図 4-(3)-1 因子負荷量の関連 (主人)



5. 主体的満足度と価値観の関連

価値観は、個人のライフスタイルの行動原理となっており、それは、環境と同様に主体的満足度（性格、生き方等への満足度）とも関連があると思われる。すなわち、ここでの理論仮説は、主体的特性に対する満足度は価値観と関連があるとなる。

主体的特性の調査項目は、種々考えられるが、ここでは基本的な次の項目を設定した。まず、肉体的な項目として健康と容姿、また、精神的な項目としては性格、さらに行動的項目として生き方と仕事の5項目である。その他に、満足度とは異なるが、喜びや苦しみの程度の項目も調査している。このような調査項目と価値観との関連を相関係数で表わしたのが表5-1、表5-2である。

主人の場合、性格に対して、楽しさ、気楽平靜、柔軟性を重視する価値観への適合度が高い人ほど満足度が高い傾向がみられる。また、生き方や仕事に対しては行動支配派、喜びには、柔軟性を重視する多彩柔軟派との関連があることが分かる。

表5-1 主体的満足度と価値観の関連（主人）

性 格	享楽人生派 (0.44) 達観瞑想派 (0.42)	受容緑陰派 (0.41) 気楽個人派 (0.34)	多彩柔軟派 (0.28)
健 康	享楽人生派 (0.34)	気楽個人派 (0.28)	
生 き 方	行動支配派 (0.35)		
仕 事	行動支配派 (0.31)		
容 姿	達観瞑想派 (0.31)		
苦 し み			
喜 び	多彩柔軟派 (0.38)		

注) () の中の数字は相関係数で検定の有意水準は5%

表5-2 主体的満足度と価値観の関連（主婦）

性 格	努力進歩派 (0.25)	享楽人生派 (-0.30)	
健 康	社会建設派 (0.29)		
生 き 方	協同共楽派 (0.32) 努力進歩派 (0.26)	行動支配派 (0.29) 穩健禁欲派 (-0.32)	社会建設派 (0.27)
仕 事	多彩柔軟派 (0.32)	隱健禁欲派 (-0.26)	
容 姿	多彩柔軟派 (0.30)	努力進歩派 (0.27)	
苦 し み	隱健禁欲派 (0.35)	達観瞑想派 (0.26)	
喜 び	多彩柔軟派 (0.46)		

それに対して、主婦は、性格において主人とは逆に享楽人生派との関連が不満足度を高める要因となっている。生き方では、協同協楽派・行動支配派・社会建設派・努力進歩派の建設・行動・努力型の価値観への満足度が高く、欲求抑制型の穏健禁欲派には不満足度が高まる傾向がみられる。苦しみは、生き方とも関連するが、欲求抑制型の穏健禁欲派、達観瞑想派の価値観の人ほど高まる傾向がうかがえる。喜びに関しては、主人と同様である。

6. 幸福感・満足度・価値観の関連

幸福についての定義をすることは、かなり難しいことである。客観的には幸福でありそうもない人間が仕合わせであったり、種々の条件に恵まれていて仕合わせそうにみえる人間が不幸であったりする例は多い。そこで、ここでは作業仮説的な定義として、幸福感は生命の充実感であるとし、それは、喜びの感情に大きく左右されると考える。

今回の調査項目における幸福感との相関は表 6-1 のようになった。これから、主人と主婦も過去一年間における喜びの程度が、幸福感との関連において最も高い相関を示していることが分かるだろう。その喜びは、環境や主体的特性に対する充足感（満足度）や、欲求そのものに影響を与える価値観等に左右されると考える。すなわち、ここでの理論仮説は、「幸福感は、主体（自己）や環境に対する種々の欲求の充足感（満足度）や価値観等感と関連がある」となる。

この理論仮説の検証のために、主人と主婦それぞれに重回帰分析を行なった。主人は、説明変数として表 6-1 の相関係数が有意である変数の中からまず、生き方・容姿・仕事・性格（主体的特性）、行動支配派・多彩柔軟派（価値観）、環境・年令、主婦は、生き方・仕事・性格・容姿・苦しみの程度（主体的特性）、努力進歩派・多彩柔軟派・達観瞑想派（価値観）、環境を選択した。それから、負号条件、 t 値により変数を調整した結果が表 6-2 である。

この結果から、主人の説明変数は、生き方・容姿（主体的特性）、行動支配派・多彩柔軟派（価値観）、主婦は、生き方・仕事（主体的特性）、達観瞑想派（価値観）と環境を使用しており、主人には環境の影響が小さいことが分かる。また、価値観の回帰係数の符号は主人は正、主婦は負になっているのは特徴的である。両者に共通しているのは、幸福感に対して主人も主婦も環境的要因より主体的特性からの影響の方が強いこと、またその中でも主人の場合、生き方への満足度が幸福感を高める大きな要因となっていることである。

幸福感の要因分析は本研究以外にも種々行なわれている。その一つの例として、第3回国民生活選好度調査においては、総合幸福度の規定要因について数量化1類を使って分析している。

表 6-1 幸福感との関連

幸 福 感 (主人)	相関係数	幸 福 感 (主婦)	相関係数
* 幸福感	1.00	* 幸福感	1.00
* 過去1年間における喜びの程度	0.73	* 過去1年間における喜びの程度	0.71
* 自分の生き方	0.71	* 自分の生き方	0.44
* 容姿	0.57	* 家事育事や仕事に対する能力	0.41
* 家事育事や仕事に対する能力	0.56	* 性格	0.35
* 行動支配派	0.42	* 理想的な生き方への適合度	0.35
* 性格	0.39	* 容姿	0.33
* 多彩柔軟派	0.33	* 多彩柔軟派	0.31
* 交通機関の便利さ	0.32	* 努力進歩派	0.27
* 理想的な生き方への適合度	0.32	* 環境全般	0.27
* 環境全般	0.30	家のまわりの自然環境	0.24
保健・医療の施設やサービス	0.19	並木の上下水道	0.24
あなたの住んでいる住宅	0.18	現在の余暇(時間的余裕)	0.24
安全性	0.18	買物距離	0.23
住んでいる地域環境(並木)	0.17	総合的環境満足度	0.20
健康	0.16	現在の収入(家族全体)	0.20
日本の裁判制度	0.16	健康	0.17
家のまわりの自然環境	0.16	住んでいる地域環境(並木)	0.16
周辺の景色	0.13	並木における人間関係	0.14
努力進歩派	0.13	コミュニティー活動	0.13
教育・文化施設	0.11	日本の裁判制度	0.13
慈愛同情派	0.11	商店街品揃え	0.12
気楽個人派	0.11	社会建設派	0.11
享楽人生派	0.09	住民意志の反映	0.11
協同共楽派	0.09	交通機関の便利さ	0.10
並木の道路(歩道及び車道)	0.08	日本の社会保障	0.10
総合的環境満足度	0.06	日本の政治	0.08
受容緑陰派	0.06	世帯の全収入(去年1年間)	0.08
現在の余暇(時間的余裕)	0.05	並木の道路(歩道及び車道)	0.08
社会建設派	0.05	行動支配派	0.07
達観瞑想派	0.04	教育・文化施設	0.07
欲望充足派	0.03	協同共楽派	0.06
コミュニティー活動	0.02	受容緑陰派	0.05
物価	-0.01	レジャー施設	0.05
日本の政治	-0.01	慈愛同情派	0.04
過去1年間における苦しさの程度	-0.01	周辺の景色	0.04
買物距離	-0.04	欲望充足派	0.02
静けさ(あなたの住いの周辺)	-0.04	静けさ(あなたの住いの周辺)	0.01
現在の収入(家族全体)	-0.05	保健・医療の施設やサービス	-0.01
隠健禁欲派	-0.05	物価	-0.04
日本の社会保障	-0.06	あなたの住んでいる住宅	-0.05
住民意志の反映	-0.09	ゴミ収集	-0.12
商店街品揃え	-0.09	秩序社会派	-0.12
ゴミ収集	-0.12	家族数	-0.13
家族数	-0.15	安全性	-0.13
世帯の全収入(去年1年間)	-0.16	享楽人生派	-0.15
レジャー施設	-0.17	気楽個人派	-0.18
並木の上下水道	-0.19	年齢	-0.18
秩序社会派	-0.20	隠健禁欲派	-0.24
並木における人間関係	-0.22	* 達観瞑想派	-0.35
* 年齢	-0.29	* 過去1年間における苦しさの程度	-0.36

注) * が付加してある項目は5%の検定水準で有意であるとみなされたものである。

表 6-2 幸福感の要因分析

(主人)	重相関係数=0.806			
Y=	0.4305 X1	+ 0.2639 X2	+ 0.1783 X3	+ 0.1449 X4 + 0.3422
(幸福感)	(生き方)	(容姿)	(行動支配派)	(多彩柔軟派)
	(t=4.35)	(t=2.78)	(t=2.07)	(t=1.97)
偏相関係数	(0.549)	(0.387)	(0.298)	(0.284)
(主婦)	重相関係数=0.6427			
Y=	0.2126 X1	+ 0.2310 X2	- 0.1999 X3	+ 0.2574 X4 + 0.1956
(幸福感)	(生き方)	(仕事)	(達観瞑想派)	(環境)
	(t=2.29)	(t=2.16)	(t=-2.71)	(t=2.58)
偏相関係数	(0.295)	(0.279)	(-0.343)	(0.329)

変数としては、性別、職業、学歴、収入、財産、住居、市町村規模、政治意識、地位、階層帰属意識等が使用されている。重相関係数は0.43であり、偏相関係数が0.2以上のものは階層帰属意識（現在の生活の程度で、上、中の上、中の下、下の四段階）だけである。

本研究では、幸福感の規定要因を主体的特性や環境に対する満足度と価値観の変数を用いて重回帰分析を行なった。重相関係数は、主婦が0.64で主人の0.8には劣るが、それほど小さな値ではない。しかし、満足度や価値観の変数の種類やその内容によって、説明力が大きく変化することも考えられ、今後の十分な検討が必要であろう。

(おわりに)

今回の調査対象の場合、冒頭に述べた三つの問いに対する結論を簡単に記すと次のとおりである。

- (1) 同一の環境に対する各人の満足度の違いは、何によってもたらされるか。

客観的に同一の条件である環境の各項目の中には、各人の価値観によって満足度が異なるものがある。それは、社会的環境においてより顕著である。

- (2) 自分の生き方や性格等に対する満足度が高い人々には、共通の価値観の傾向性がみられるか。

本研究における調査対象の場合、主婦と主人とでは異なった傾向性がみられた。種々の価値観の中では、主人は享楽人生派、主婦は努力進歩派が性格への満足度を高める大きな要因となっている。生き方に対しては、主婦は協同共楽派、主人は行動支配派がその他の価値観と比較して相対的に満足度を高める傾向を示している。

- (3) 幸福感を左右するのは、環境的要因と主体的特性（生き方・価値観・性格等）が考えられるが、どちらの影響力が強いのか。

幸福感に対して、主人も主婦も環境的要因より主体的特性からの影響の方が強いとい

う分析結果となった。

幸福感や満足度調査は、各国でそれぞれの視点から積極的に行なわれているが、本研究で行なった調査の特徴は、価値観との関連を重視していることである。

調査における今後の課題としては、価値観の分類と調査方法があげられる。それは、全ての人間の価値観を13種類に限定することの限界、また、各価値観の記述内容の妥当性の問題である。

〈謝辞〉

本研究を進めるにあたり、調査にご協力頂いた筑波研究学園都市の並木住宅地区の方々に厚く感謝します。

参考文献 (注は1～5)

- 1) L. Y. ゴードン著, 菊地章夫訳, (1975): 価値の比較社会心理学, 川島書店, pp. 2~3.
- 2) 井関利明編, (1976): 福祉志向の論理, 有斐閣, pp. 71~123.
- 3) 金沢良雄編, (1969): 住宅環境, 有斐閣, p. 42.
- 4) 宇沢弘文, (1972): 環境問題と公共投資配分, 季刊現代経済, No. 7, p. 9.
- 5) 辻清明編, (1976): 行政と環境, 東京大学出版会, pp. 40~41.
- 6) 今村和男編, (1977): システム分析, 日科技連.
- 7) 牧野昇編, (1976): 環境アセスメントとその手法, 三菱総合研究所, pp. 131~149.
- 8) 経済企画庁国民生活局編, (1984): 第4回国民生活選好度調査, 大蔵省印刷局.
- 9) 国民生活審議会・国民生活選好度調査小委員会編, (1980): 第3回国民生活選好度調査, 大蔵省印刷局.
- 10) 経済企画庁国民生活局・国民生活調査課編, (1976): 第2回国民生活選好度調査, 大蔵省印刷局.
- 11) 出井弘一, (1973): 日本人の選好度, 至誠堂.
- 12) 生命保険文化センター, 野村総合研究所編, (1980): 日本人の生活価値観, 東洋経済新報社.
- 13) 萩原勝, (1978): 日本人のクオリティ・オブライフ, 至誠堂.
- 14) 青井和夫, 他編, (1971): 生活構造の理論, 有斐閣選書.
- 15) H. M. プロシャンスキー他編, 望月衛訳, (1977): 環境心理の基境, 章国社.
- 16) 石毛直道編, (1978): 環境と文化—人類学的考察—, 日本放送出版協会.
- 17) Gold, J. R. (1980): An Introduction to Behavioral Geography, Oxford University Press.
- 18) Ackoff, R. L. and Emery, F. E. (1972): On purposeful Systems, London, Tavistock Publications.
- 19) Dallkey, Norman C. (1972): Studies in the Quality of Life, Rand Corporation.
- 20) Morris, Charles (1973): Varieties of Human Value, Bks Demand UMI.

付 属 資 料

環 境 満 足 度 (主婦)	平 均 値	標 準 偏 差
交通機関の便利さ	1.66	0.87
物価	1.84	0.75
日本の社会保障	2.09	0.81
日本の政治	2.15	0.78
保健・医療の施設やサービス	2.40	0.99
現在の収入(家族全体)	2.58	1.05
住民意志の反映	2.58	0.74
日本の裁判制度	2.69	0.74
商店街品揃え	2.70	1.11
並木の上下水道	2.72	1.17
レジャー施設	2.78	0.99
あなたの住んでいる住宅	2.94	1.06
教育・文化施設	2.96	1.11
安全性	3.05	0.81
並木における人間関係	3.15	0.98
現在の余暇(時間的余裕)	3.16	1.24
買物距離	3.21	1.18
環境全般	3.48	0.75
静けさ(あなたの住いの周辺)	3.58	1.14
周辺の景色	3.68	0.87
ゴミ収集	3.78	0.94
並木の道路(歩道及び車道)	3.82	1.04
住んでいる地域環境(並木)	3.91	0.79
家のまわりの自然環境	4.19	0.85

環境満足度(主人)	平均値	標準偏差
交選機関の便利さ	1.58	0.67
現在の収入(家族全体)	2.04	1.04
物価	2.08	0.92
日本の政治	2.10	1.02
日本の社会保障	2.37	0.91
住民意志の反映	2.54	0.79
保健・医療の施設やサービス	2.54	1.03
日本の裁判制度	2.56	0.84
現在の余暇(時間的余裕)	2.56	0.97
教育・文化施設	2.67	1.14
レジャー施設	2.68	1.13
商店街品揃え	2.78	0.95
安全性	2.90	0.97
並木の上下水道	2.96	1.18
買物距離	3.04	1.05
並木における人間関係	3.14	0.73
あなたの住んでいる住宅	3.16	1.08
環境全般	3.34	0.82
周辺の景色	3.36	1.06
住んでいる地域環境(並木)	3.48	0.89
静けさ(あなたの住いの周辺)	3.48	1.09
ゴミ収集	3.60	0.86
並木の道路(歩道及び車道)	3.66	1.14
家のまわりの自然環境	4.06	0.96

環 境 満 足 度 (全体)	平 均 値	標 準 偏 差
交通機関の便利さ	1.63	0.79
物価	1.94	0.83
日本の政治	2.13	0.88
日本の社会保障	2.21	0.86
現在の収入(家族全体)	2.35	1.07
保健・医療の施設やサービス	2.46	1.01
住民意志の反映	2.56	0.76
日本の裁判制度	2.64	0.78
商店街品揃え	2.73	1.04
レジャー施設	2.74	1.05
並木の上下水道	2.82	1.17
教育・文化施設	2.84	1.13
現在の余暇(時間的余裕)	2.91	1.17
安全性	2.98	0.88
あなたの住んでいる住宅	3.03	1.07
並木における人間関係	3.14	0.88
買物距離	3.14	1.13
環境全般	3.42	0.78
静けさ(あなたの住いの周辺)	3.53	1.11
周辺の景色	3.54	0.97
ゴミ収集	3.70	0.91
住んでいる地域環境(並木)	3.72	0.85
並木の道路(歩道及び車道)	3.75	1.08
家のまわりの自然環境	4.14	0.90

自分自身に関する項目（主人）	平均値	標準偏差
過去1年間における苦しさの程度	2.94	0.90
性格	3.06	1.01
容姿	3.12	0.95
家事育事や仕事に対する能力	3.26	0.92
健康	3.40	0.97
自分の生き方	3.43	0.96
過去1年間における喜びの程度	3.53	0.94
幸福観	3.55	0.87

自分自身に関する項目（主婦）	平均値	標準偏差
過去1年間における苦しさの程度	2.55	1.14
容姿	2.05	0.63
性格	2.98	0.73
家事育事や仕事に対する能力	3.28	0.76
健康	3.30	0.99
自分の生き方	3.34	0.94
過去1年間における喜びの程度	3.73	0.87
幸福観	3.83	0.73

自分自身に関する項目（全体）	平均値	標準偏差
過去1年間における苦しさの程度	2.71	1.06
性格	3.02	0.83
容姿	3.03	0.78
家事育事や仕事に対する能力	3.27	0.83
健康	3.34	0.98
自分の生き方	3.38	0.94
過去1年間における喜びの程度	3.64	0.90
幸福観	3.71	0.80

價值觀(主人)	平均值	標準偏差
多彩柔迫派	3.42	1.07
努力進步派	3.02	0.98
協同共樂派	2.98	1.03
慈愛同情派	2.92	1.05
秩序社會派	2.86	1.18
隱健禁欲派	2.84	1.06
社會建設派	2.80	1.00
受容綠陰派	2.56	1.05
達觀冥想派	2.52	1.07
享樂人生派	2.44	1.05
氣樂個人派	2.40	1.12
行動支配派	2.40	0.99
欲望充足派	2.00	0.87

價值觀(主婦)	平均值	標準偏差
多彩柔軟派	3.41	0.93
秩序社會派	3.13	1.14
慈愛同情派	2.94	0.83
協同共樂派	2.85	1.11
隱健禁欲派	2.75	1.01
受容綠陰派	2.61	0.94
達觀冥想派	2.52	0.96
努力進步派	2.41	0.88
社會建設派	2.41	0.90
享樂人生派	2.31	1.08
氣樂個人派	2.16	1.10
行動支配派	2.06	0.86
欲望充足派	1.88	0.91

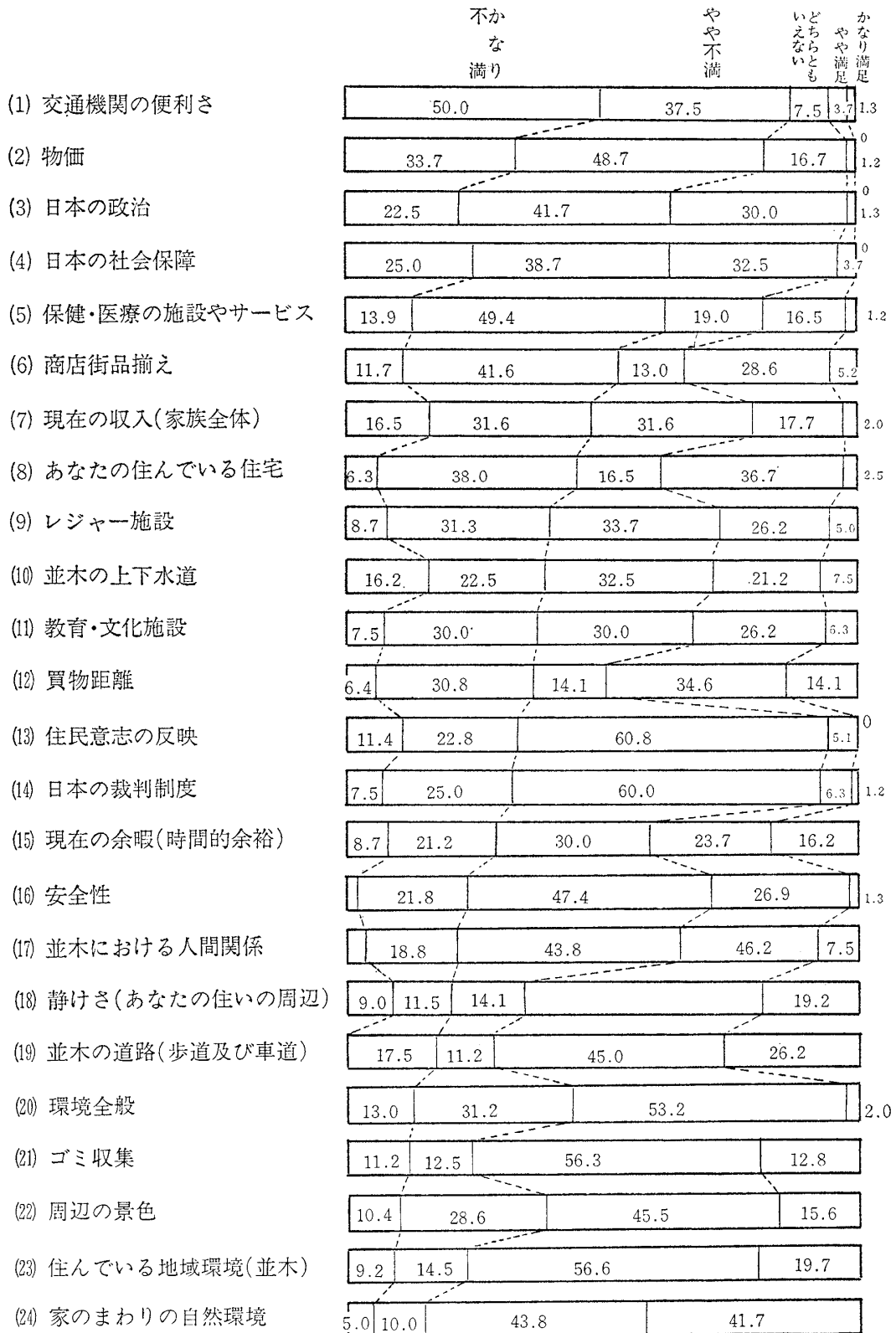
價值觀(全体)	平均值	標準偏差
多彩柔軟派	3.42	0.99
秩序社會派	3.02	1.16
慈愛同情派	2.93	0.92
協同共樂派	2.91	1.07
隱健禁欲派	2.79	1.03
努力進步派	2.67	0.97
受容綠陰派	2.59	0.98
社會建設派	2.57	0.96
達觀冥想派	2.52	1.01
享樂人生派	2.36	1.07
氣樂個人派	2.26	1.11
行動支配派	2.20	0.93
欲望充足派	1.93	0.89

そ の 他 (主人)	平 均 値	標 準 偏 差
理想的な生き方への適合度	3.06	0.80
年齢	37.16	7.28
家族数	3.48	1.01
コミュニティー活動	1.22	0.47
世帯の全収入(去年1年間)	2.14	1.26

そ の 他 (主婦)	平 均 値	標 準 偏 差
理想的な生き方への適合度	2.94	0.81
年齢	33.89	5.85
家族数	3.57	0.97
コミュニティー活動	1.53	0.66
世帯の全収入(去年1年間)	2.36	1.33

そ の 他 (全体)	平 均 値	標 準 偏 差
理想的な生き方への適合度	2.99	0.81
年齢	35.30	6.68
家族数	3.53	0.98
コミュニティー活動	1.40	0.61
世帯の全収入(去年1年間)	2.26	1.30

環境満足度の分布(主婦)



環境満足度の分布(主人)

	不 か な 満 り		や や 不 満	い ど ち ら と も	か な り 満 足	
(1) 交通機関の便利さ	53.7		35.2	9.3	1.9	0
(2) 物価	25.9	44.4	16.7	13.0		0
(3) 現在の収入(家族全体)	34.0	35.8	20.8	7.5	1.9	
(4) 日本の政治	33.3	29.6	27.8	9.3		0
(5) 教育・文化施設	13.2	39.6	15.1	30.2	1.9	
(6) 日本の社会保障	18.9	32.1	41.5	7.5		0
(7) 保健・医療の施設やサービス	17.0	34.0	28.3	20.8		0
(8) レジャー施設	14.8	35.2	22.2	24.1		3.7
(9) 現在の余暇(時間的余裕)	13.0	33.3	35.2	16.7	1.9	
(10) 日本の裁判制度	9.3	33.3	46.3	11.1		0
(11) 住民意志の反映	9.3	31.5	55.6		1.9	1.0
(12) 並木の上下水道	11.1	29.6	16.7	33.3	9.3	
(13) 商店街品揃え	11.1	27.8	40.7	16.7		3.7
(14) 買物距離	9.3	25.9	31.5	27.8	5.6	
(15) 安全性	7.4	27.8	31.5	33.3		0
(16) あなたの住んでいる住宅	9.3	20.4	20.4	48.1		1.9
(17) 周辺の景色	5.6	14.8	27.8	38.9	13.0	
(18) 静けさ(あなたの住いの周辺)	5.6	13.0	25.9	38.9	16.7	
(19) 環境全般	13.0	33.3	48.1		1.9	
(20) 住んでいる地域環境(並木)	13.0	25.9	53.7		5.6	
(21) 並木の道路(歩道及び車道)	5.6	7.4	24.1	40.7	22.2	
(22) 並木における人間関係	9.3	66.7		18.5	3.7	
(23) ゴミ収集	7.4	33.3	46.3	11.1		1.9
(24) 家のまわりの自然環境	5.6	13.0	46.3	33.3		1.4

環境満足度の分布(全体)

	不 か な 満 り		や や 不 満	い ど ち ら も い え な い	や や 満 足	か な り 満 足
(1) 交通機関の便利さ	51.5		36.6	8.2	3.0	0.2
(2) 物価	30.6		47.0	16.4	6.0	0
(3) 日本の政治	26.9		36.6	32.1	4.5	0
(4) 日本の社会保障	22.6		36.1	36.1	5.3	0
(5) 保健・医療の施設やサービス	15.2		43.2	22.7	18.2	0.8
(6) 現在の収入(家族全体)	23.5		33.3	27.3	13.6	2.0
(7) 商店街品揃え	11.5		35.9	24.4	23.7	4.6
(8) レジャー施設	11.2		32.8	21.2	31.8	4.5
(9) 教育・文化施設	9.8		33.8	24.1	27.8	4.5
(10) 並木の上下水道	14.2		25.4	26.1	26.1	8.2
(11) あなたの住んでいる住宅	7.5		30.8	18.5	41.4	2.0
(12) 住民意志の反映	10.5		26.3	58.6	3.8	0.2
(13) 日本の裁判制度	8.2		28.4	54.5	8.2	
(14) 現在の余暇(時間的余裕)	10.4		26.1	32.1	20.9	10.4
(15) 買物距離)	7.6		28.8	21.2	31.8	10.6
(16) 安全性	4.5		24.2	40.9	29.5	0.8
(17) 静けさ(あなたの住いの周辺)	7.6	12.1	18.9	43.2	18.2	
(18) 並木における人間関係	3.0	14.9	53.0	23.1	6.0	
(19) 並木の道路(歩道及び車道)	2.2	13.4	16.4	43.3	24.6	
(20) 周辺の景色	2.3	12.2	28.2	42.7	14.5	
(21) 環境全般	1.5	13.0	32.1	51.1		
(22) 住んでいる地域環境(並木)	0.8	10.8	19.2	55.4	13.8	
(23) ゴミ収集	1.5	9.7	20.9	52.2	15.7	
(24) 家のまわりの自然環境	0.7	5.2	11.2	44.8	38.1	

行動的価値観の分布(主婦)

	感じる へだたりを	かなり かたりを	や へだたりを	い えな ど ちら とも	あ て は ま る	あ て は ま る	かな り あ て は ま る
(1) 多彩柔軟派	3.7	11.2		35.0		43.8	6.3
(2) 秩序社会派		11.5	21.8	28.2	30.8		7.7
(3) 協同共楽派		10.0	32.5	30.0	21.2		6.3
(4) 隠健禁欲派		13.7	22.5	41.2		22.5	0
(5) 慈愛同情派	6.3	18.8		55.0		17.5	2.5
(6) 享楽人生派		27.5		28.7	28.7		15.0
(7) 達観瞑想派		15.2		35.4	35.4		13.9
(8) 愛容緑陰派		11.4	32.9		43.0		11.4
(9) 気楽個人派			35.0	27.5	26.2		7.5
(10) 社会建設派		17.5		26.2	48.7		7.5
(11) 努力進歩派		15.0		35.0	42.5		7.5
(12) 欲望充足派			38.0		35.4		24.1
(13) 行動支配派			28.7		38.7		30.0

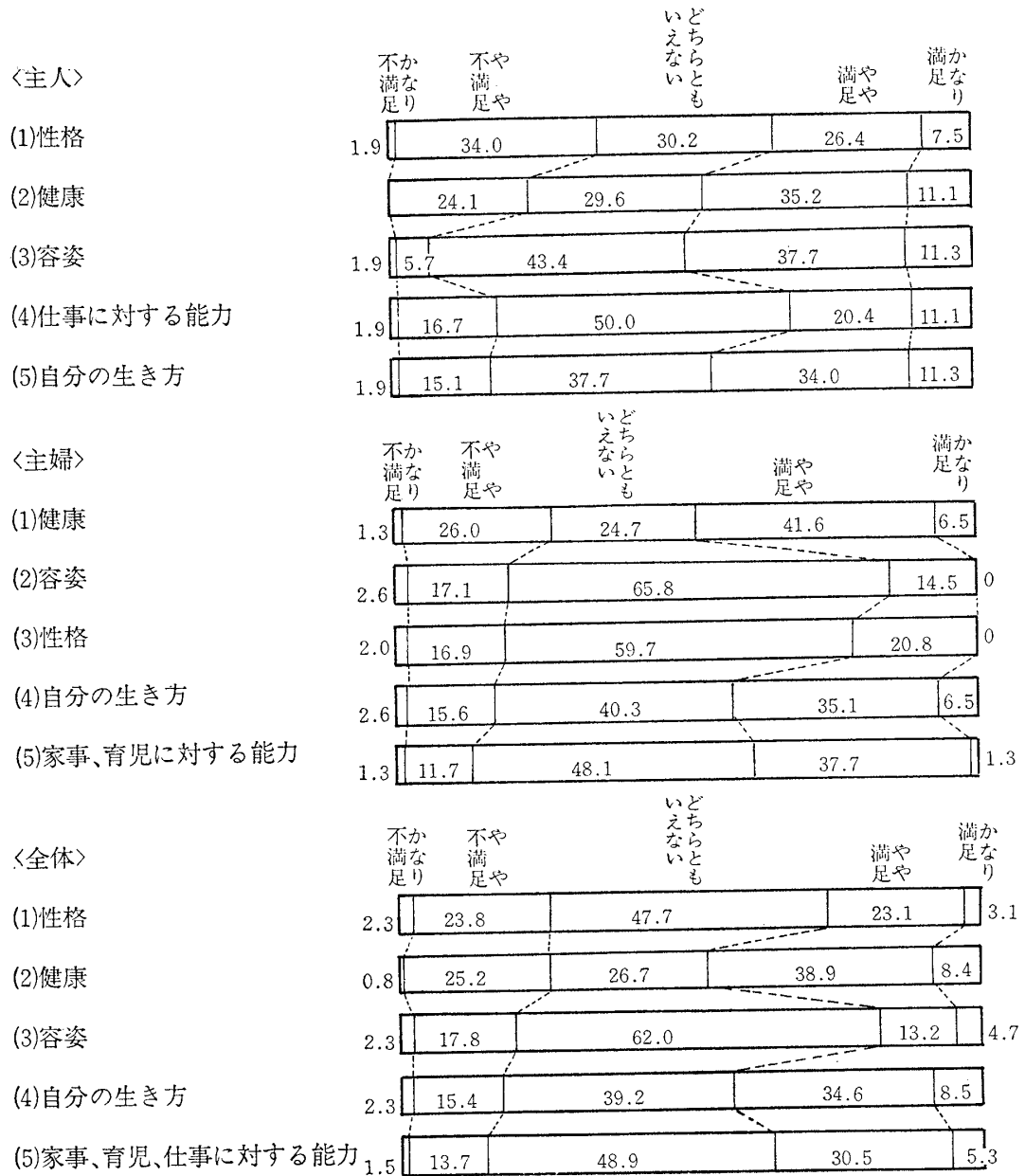
行動的価値観の分布(主人)

	感へか じだ るた りを	感へや じだ るた りを	いど えち ない とも	あや ては まる	あな ては まる	
(1) 多彩柔軟派	5.6	11.1	35.2	35.2	13.0	
(2) 慈愛同情派	9.3	24.1	37.0	25.9	3.7	
(3) 努力進歩派	7.4	20.4	42.6	25.9	3.7	
(4) 協同共楽派	7.5	22.6	41.5	22.6	5.7	
(5) 秩序社会派	11.1	29.6	31.5	18.5	9.3	
(6) 隠健禁欲派	7.4	33.3	33.3	20.4	5.6	
(7) 社会建設派	9.4	24.5	45.3	17.0	3.8	
(8) 受容緑陰派	14.8	37.0	27.8	18.5	1.9	
(9) 達観瞑想派	20.4	27.8	31.5	20.4	0	
(10) 気楽個人派	22.2	37.0	20.4	18.5	1.9	
(11) 享楽人生派	20.4	33.3	27.8	18.5	0	
(12) 行動支配派	22.2	27.8	38.9	11.1	0	
(13) 欲望充足派	28.8	42.3	25.0	3.8	0	

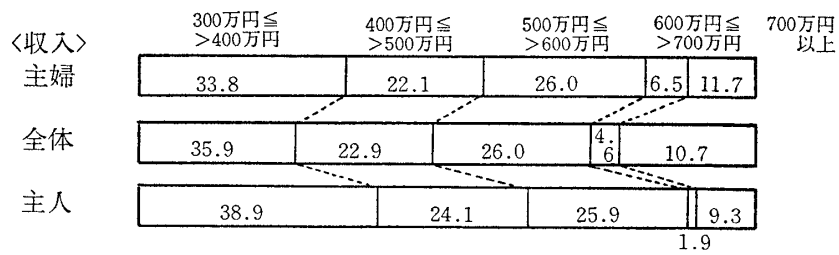
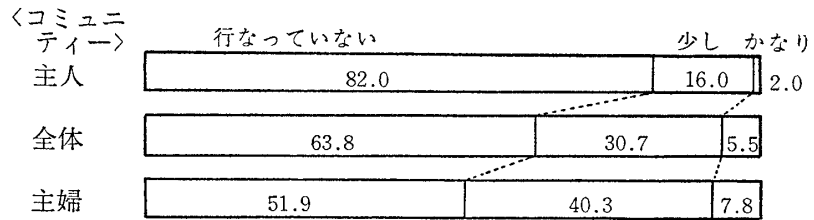
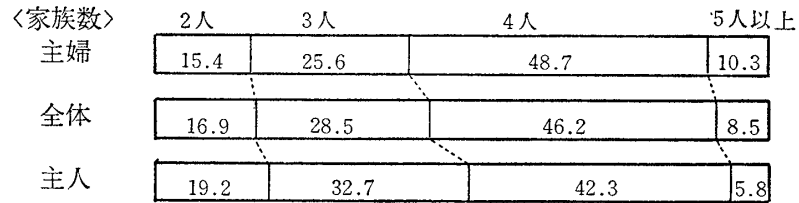
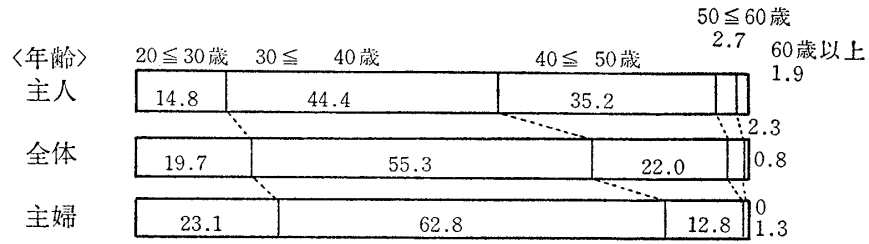
行動的価値観の分布(全体)

	感じる へだたりを かなり	へだたりを 感じる や	どちらとも いえない	あてはまる や	あてはまる かなり
(1) 多彩柔軟派	4.5	11.2	35.1	40.4	9.0
(2) 秩序社会派	11.4	25.0	29.5	25.8	8.3
(3) 協同共楽派	9.0	28.6	34.6	21.8	6.0
(4) 慈愛同情派	7.5	20.9	47.8	20.9	3.0
(5) 隠健禁欲派	11.2	26.9	38.1	21.6	2.2
(6) 達観瞑想派	17.3	32.3	33.8	16.5	0
(7) 努力進歩派	11.9	29.1	42.5	14.9	1.5
(8) 享楽人生派	24.6	30.6	28.4	16.4	0
(9) 受容緑陰派	12.8	34.6	36.8	14.3	1.5
(10) 気楽個人派	29.9	31.3	23.9	11.9	3.0
(11) 社会建設派	14.3	25.6	47.4	11.3	1.5
(12) 行動支配派	26.1	34.3	33.6	6.0	0
(13) 欲望充足派	34.4	38.2	24.4	0.8	2.3

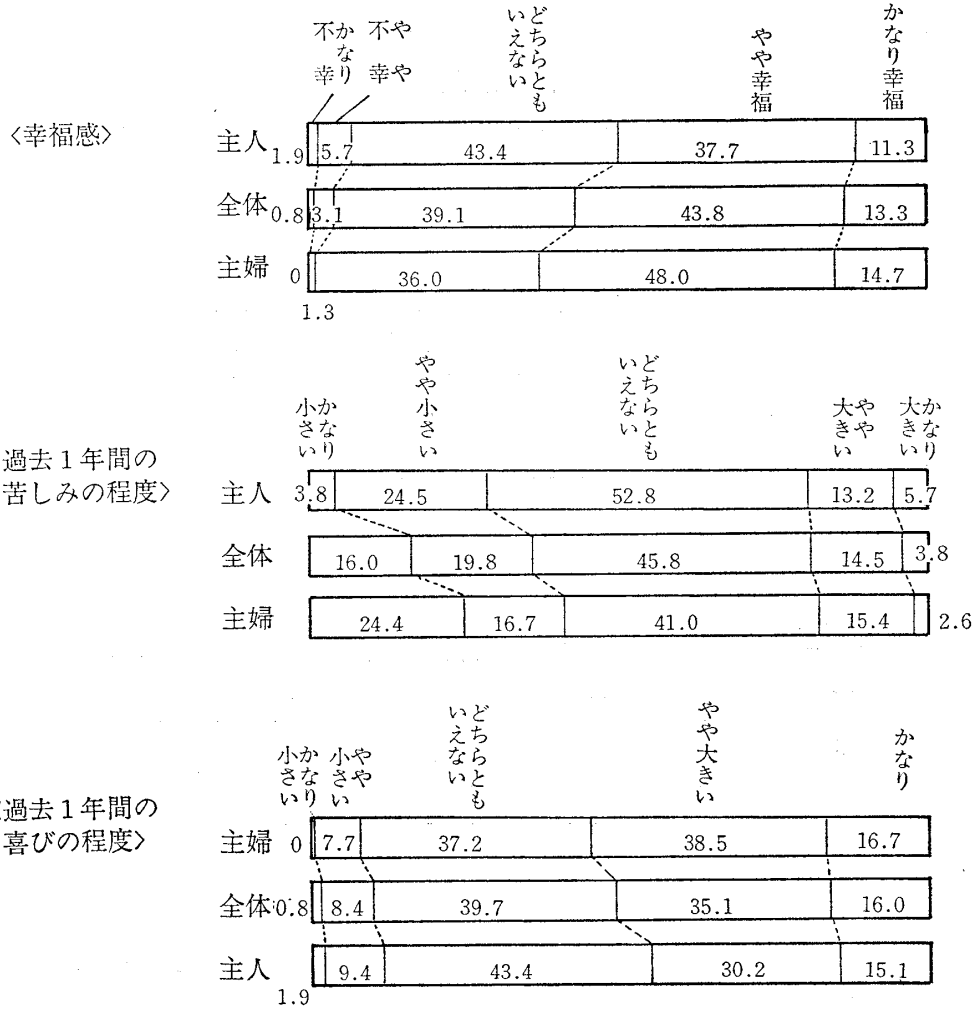
満足度の分布(自分自身)



その他個人的属性の分布



幸福感・苦しみ・喜びの程度の分布



『幸福感・環境・価値観の関連調査』

調 査 票

1. (環境に関する項目)

あなたは、次にあげるようなことに満足していますか。それとも不満ですか。右の5段階の中から一つ選んで番号に○をつけてください。

	かなり 不満	1	2	3	4	5	かなり 満足
(1) 家のまわりの自然環境	(1)	1	2	3	4	5	
(2) 現在の収入 (家族全体)	(2)	1	2	3	4	5	
(3) 現在の余暇 (時間的余裕)	(3)	1	2	3	4	5	
(4) 保健・医療の施設やサービス	(4)	1	2	3	4	5	
(5) 並木における人間関係	(5)	1	2	3	4	5	
(6) 各種相談・苦情処理機関の整備及び住民意思の反映	(6)	1	2	3	4	5	
(7) 交通事故・犯罪・災害からの安全性	(7)	1	2	3	4	5	
(8) ゴミ収集	(8)	1	2	3	4	5	
(9) 日本の社会保障	(9)	1	2	3	4	5	
(10) 日本の政治	(10)	1	2	3	4	5	
(11) 日本の裁判制度	(11)	1	2	3	4	5	
(12) 物価	(12)	1	2	3	4	5	
(13) 並木の上下水道	(13)	1	2	3	4	5	
(14) 並木の道路 (歩道及び車道)	(14)	1	2	3	4	5	
(15) あなたの住んでいる住宅	(15)	1	2	3	4	5	
(16) 道路・バス・鉄道などの交通機関の便利さ	(16)	1	2	3	4	5	
(17) 地域の学校・図書館・公民館などの教育・文化施設	(17)	1	2	3	4	5	
(18) レジャー施設	(18)	1	2	3	4	5	
(19) 買物距離	(19)	1	2	3	4	5	
(20) 商店街品揃え	(20)	1	2	3	4	5	
(21) 住んでいる地域環境 (並木)	(21)	1	2	3	4	5	
(22) 静けさ (あなたの住まいの周辺)	(22)	1	2	3	4	5	

(23) 周辺の景色

	かなり	や	えとど ないも いちら	や	かなり	
(23)	1	2	3	4	5	満足

(24) 環境全般（1～23の項目，その他を全体的に評価）

(24)	1	2	3	4	5
------	---	---	---	---	---

2. (自分自身に関する項目)

(25) 性格

	かなり	や	えとど ないも いちら	や	かなり	
(25)	1	2	3	4	5	

(26) 健康

(26)	1	2	3	4	5
------	---	---	---	---	---

(27) 自分の生き方

(27)	1	2	3	4	5
------	---	---	---	---	---

(28) 家事・育児（主婦の場合）や仕事（主人の場合）に対する能力

(28)	1	2	3	4	5
------	---	---	---	---	---

(29) 客姿

(29)	1	2	3	4	5
------	---	---	---	---	---

(30) 幸福感（1～29の項目，その他を全体的に評価）

(30)	1	2	3	4	5	幸福
------	---	---	---	---	---	----

(31) あなたの過去一年間の生活における苦みの程度

(31)	小	1	2	3	4	5	大
------	---	---	---	---	---	---	---

(32) あなたの過去一年間の生活における喜びの程度

(32)	1	2	3	4	5
------	---	---	---	---	---

3. (価値観に関する項目)

人には各自固有の生き方があり，評価もさまざまです。次に13種類の基調となる生活の仕方があげてありますが，あなたの現在の実際の暮らし方と比較してあてはまるものに右の5段階の中から一つ選んで番号に○をつけてください。

(13種類の項目に全て答えてください)

(1) [秩序社会派] 私は社会のルールや慣習を大切にし(例. 冠婚葬祭, 正月, 節句, 法事, 七五三等は型通り行なう), 反体制, 反動的なものには批判的である。過度の欲望を避け, 不合理なことを排除しつつ, 慎しみと知性をもって秩序ある社会生活を送っている。

	かなり	や	えとど ないも いちら	や	かなり	
(1)	1	2	3	4	5	あてはまる

(2) [穏健禁欲派] 私は, 自己の内面を見つめつつ社会生活を送っている。冒険的な行動や世俗的な欲望は慎しみ, また隣人への愛とか社会奉仕へのものめりこまない。ひたすら自分の心の平静を保つことによって穏健な社会生活を送っている。

(2)	1	2	3	4	5
-----	---	---	---	---	---

- (3) 〔達観瞑想派〕 私は、自分自身の精神的な充実を重視して生活している。社会を変革したり自然を支配することは望まないし、また欲求のおもむくまま安楽に暮らすことも望まない。ひたすら自己の修養に努めて、悟りの境地を追求する内面的生活を送っている。
- (4) 〔受容緑陰派〕 私は、大自然の理法を受け入れて生きている。欲望、行動、社会、知性、愛、それらのどれにもとられることなく、やすらかに心を開くとき、おのずから体内に満ちてくるものがある。それを受け入れることによってやすらかな喜びが得られる。
- (5) 〔慈愛同情派〕 私は、他人への思いやりや愛を大切に生きている。人生を豊かにするものは、知性や行動ではなく、共感的な愛である。だから、そのためには、社会を超越することがあっても良いと思う。同情の気持を忘れず、他を尊重して生きたいと思っている。
- (6) 〔気楽個人派〕 私は気楽な生活を送っている。自己の修養、他人との協力、社会の建設、あるいは、自己の欲望を満たすために努力することなどは好まない。多くを望まず、日々の暮しを気楽に送っていれば、それがおのずから幸福な人生につながると思っている。
- (7) 〔享楽人生派〕 私は人生の楽しみを進んで享受している。人もまた、それぞれ自分の気持ちに従って楽しめばよい。だから他から規制されることは望まないし、他へ要求することもない。社会や他人とのかかわりあい避け、時として瞑想的に、時として、感覚的に楽しんでいる。
- (8) 〔欲望充足派〕 私は積極的に人生の楽しみや喜びを追求している。それらは節度ある生活や単なる気楽な生活、あるいは社会に建設的に参加することからは得られない。その時どきの欲求のおもむくままに、思う存分行動し、欲望を充足した時に得られると思っている。
- (9) 〔協同共楽派〕 私は他の人々と協力して楽しい人生を送っている。自己の内面的生活や秩序ある社会の建設、あるいは個人的な気楽な生活よりも、他人と共に活動し、共感し、喜び楽しむことを望む。人々は協同の目的を実現するために協力すべきと思っている。
- (10) 〔行動支配派〕 私は、行動的な生活を送っている。穏健な思想や安楽な生活、あるいは他人への同情などより勇敢で冒険的な生活がよい。身体的エネルギーを用いて積極的に活動することによって障害を圧倒し、支配し、征服する。この中にこそ人生の喜びはある。
- (11) 〔努力進歩派〕 私は、活動的な社会生活を送っている。内面的生活や享乐的な生活は望まない。それよりは種々の問題の具体的な解決をはかるために努力し、活動することの方が好きだ。科学や技術を発展させて社会を進歩させるためにたえず、努力している。

(3) かなり
へだたりを感じる

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

かなり
あてはまる

(4) $\frac{1}{1} \quad \frac{1}{2} \quad \frac{1}{3} \quad \frac{1}{4} \quad \frac{1}{5}$

(5) $\frac{1}{1} \quad \frac{1}{2} \quad \frac{1}{3} \quad \frac{1}{4} \quad \frac{1}{5}$

(6) $\frac{1}{1} \quad \frac{1}{2} \quad \frac{1}{3} \quad \frac{1}{4} \quad \frac{1}{5}$

(7) $\frac{1}{1} \quad \frac{1}{2} \quad \frac{1}{3} \quad \frac{1}{4} \quad \frac{1}{5}$

(8) $\frac{1}{1} \quad \frac{1}{2} \quad \frac{1}{3} \quad \frac{1}{4} \quad \frac{1}{5}$

(9) $\frac{1}{1} \quad \frac{1}{2} \quad \frac{1}{3} \quad \frac{1}{4} \quad \frac{1}{5}$

(10) $\frac{1}{1} \quad \frac{1}{2} \quad \frac{1}{3} \quad \frac{1}{4} \quad \frac{1}{5}$

(11) $\frac{1}{1} \quad \frac{1}{2} \quad \frac{1}{3} \quad \frac{1}{4} \quad \frac{1}{5}$

- (12) 〔社会建設派〕 私は、建設的な社会生活を送っている。気楽な個人的生活は望まない。厳しい自然や社会の内であっても人間の理性を信じて外界を支配し変革するために努力し活動している。理想を保持し合理的な行動をすることによって人間の気品と尊厳が保たれると思う。
- (13) 〔多彩柔軟派〕 私は柔軟性のある生活を送っている。人生をひとつの目的や価値観や生活様式で貫くことはかたよった生き方だと思う。自分自身のうちに、多様性を養い、時と場合に応じて柔軟な生活態度がとれることが大切だと思っている。
- (14) あなたの実際的な生き方と観念的な理想的な生き方とのあてはまりの程度について。

かなり
へだたりを感じる

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

かなりあてはまる

(13)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

(14)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

4. (その他) (3)(4)は、あてはまる番号に1つ○をつけて下さい

- (1) あなたの年齢 (才)
- (2) 家族数 (人)
- (3) コミュニティー活動, 1. 行なっていない。2. 少し行なっている。3. かなり行なっている。
- (4) お宅の世帯の全収入は去年一年間でおよそどれくらいになりましたか。(ボーナスを含め税込みでお知らせ下さい)
- 1 300万円～400万円未満
 - 2 400万円～500万円未満
 - 3 500万円～600万円未満
 - 4 600万円～700万円未満
 - 5 700万円～

(お礼のあいさつ)

お忙しいところ長時間ご協力ありがとうございました。お聞きしたご回答を他にもらすようなことは決してございませんのでご安心下さい。